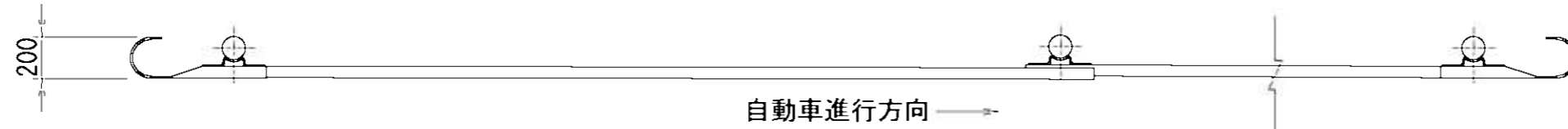


番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
201	02	GR	001	ガードレール (B種・土中式)	R2.07
	交通安全施設類	ガードレール	ガードレール (B種・土中式) - (Gr-B-4E)		S=1/30

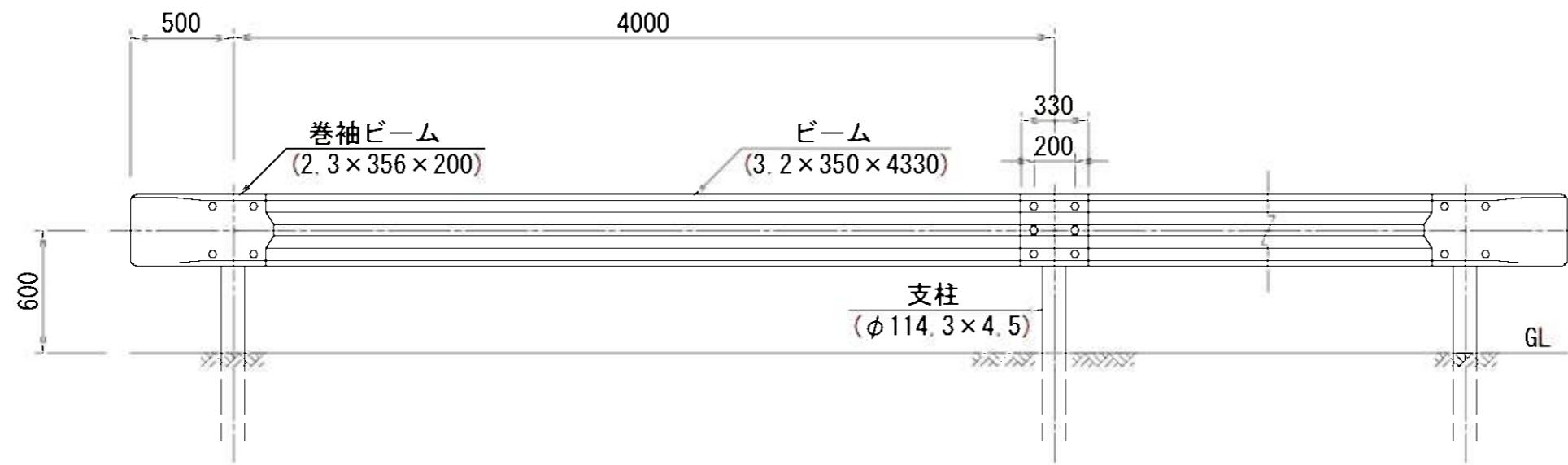
上面図

(土中式)



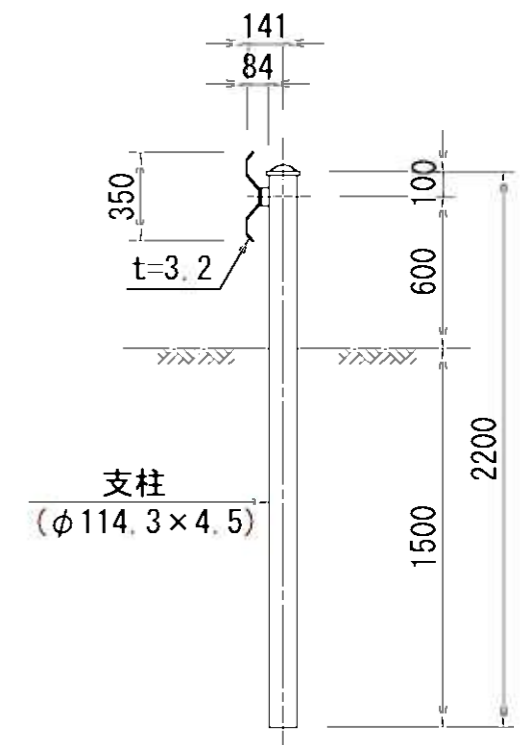
正面図

(土中式)



断面図

(土中式)



〈仕様〉

- (1) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

〈適用条件〉

- (1) 防護柵の設置場所、種別及び型式の選定については、「防護柵の設置基準・同解説 ((社)日本道路協会)」および「車両用防護柵標準仕様・同解説 ((社)日本道路協会)」による。

〈注意事項〉

- (1) ビーム中心高さは、GLからの高さをいう。ただし、縁石、アスカーブ等のある場合は、その上端からの高さをいう。

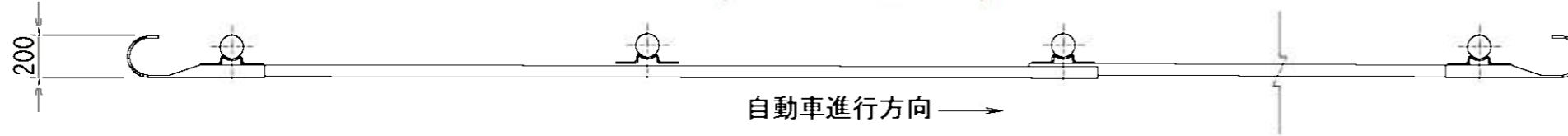
材料表 (100m当り)

ガードレール (B種)
Gr-B-4E
(m)
100.0

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
202	02	GR	002	ガードレール (B種・コンクリート建込み式)	R2.07
	交通安全施設類	ガードレール	ガードレール (B種・コンクリート建込み式) - (Gr-B-2B)		S=1/30

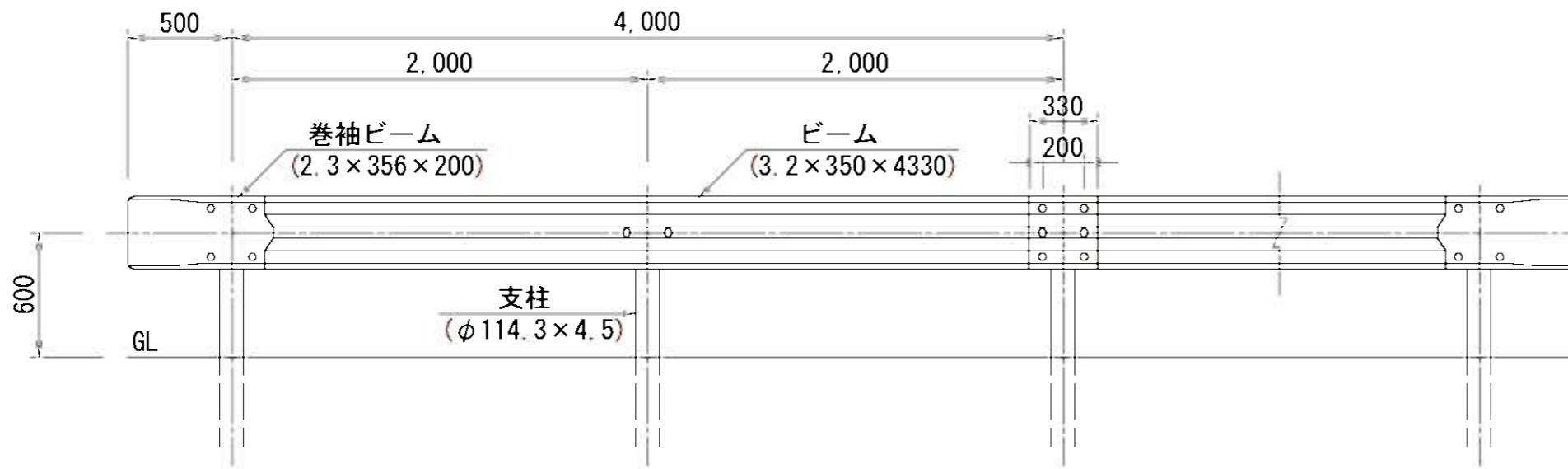
上面図

(コンクリート建込み式)



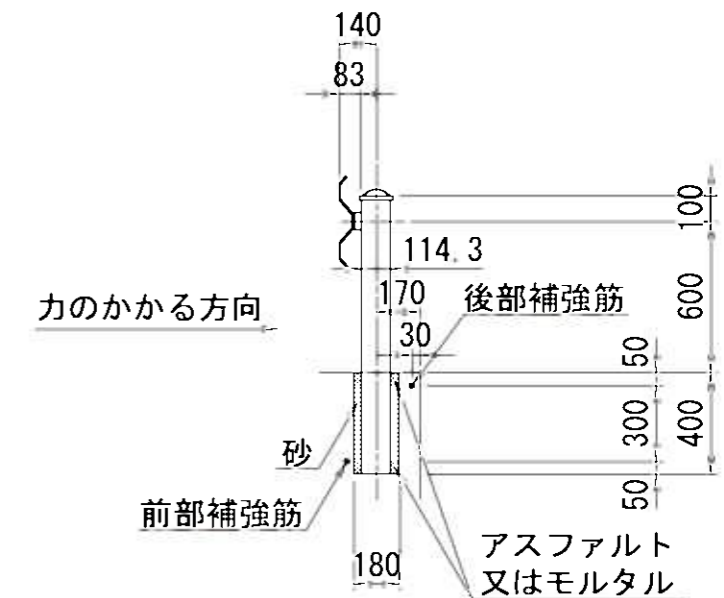
正面図

(コンクリート建込み式)



断面図

(コンクリート建込み式)



材料表

(20m当り)

ガードレール (B種)	砂	アスファルト又はモルタル	鉄筋
Gr-B-2B			D13
(m)	(m <sup>3</sup> )	(m <sup>3</sup> )	(t)
20.0	0.05	0.02	0.030

〈仕様〉

- コンクリート建込みの場合、構造物の当該部分が無筋コンクリート又は、それに近い場合補強鉄筋を別途計上する。また支柱と構造物の間隙には上下にアスファルト又はモルタルでシールし、中間部には砂を充填する。
- 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

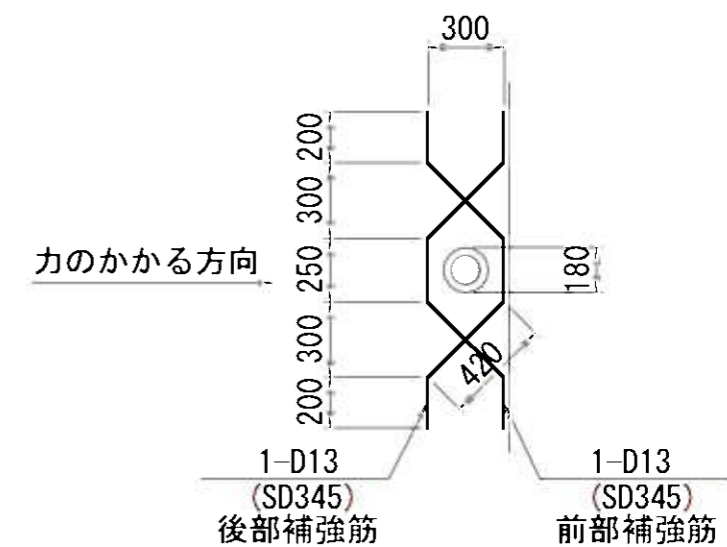
〈適用条件〉

- 防護柵の設置場所、種別及び型式の選定については、「防護柵の設置基準・同解説 ((社)日本道路協会)」および「車両用防護柵標準仕様・同解説 ((社)日本道路協会)」による。
- コンクリート設計基準強度24N/mm<sup>2</sup>の場合に適用。

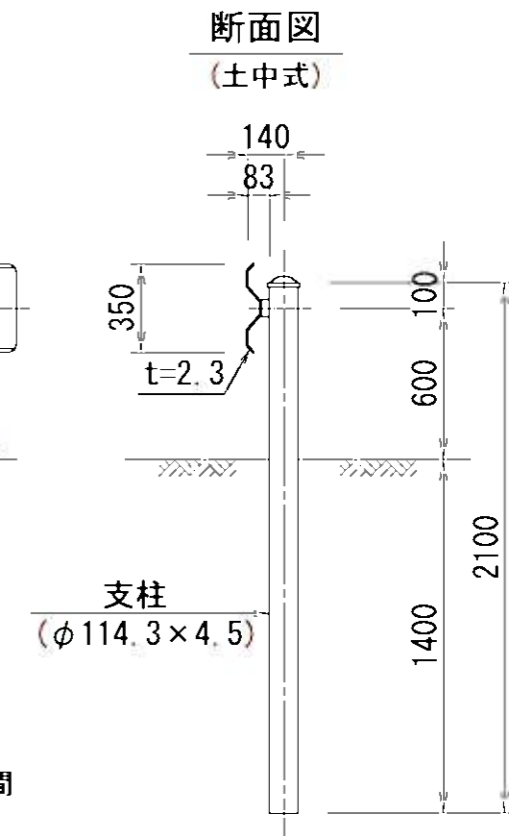
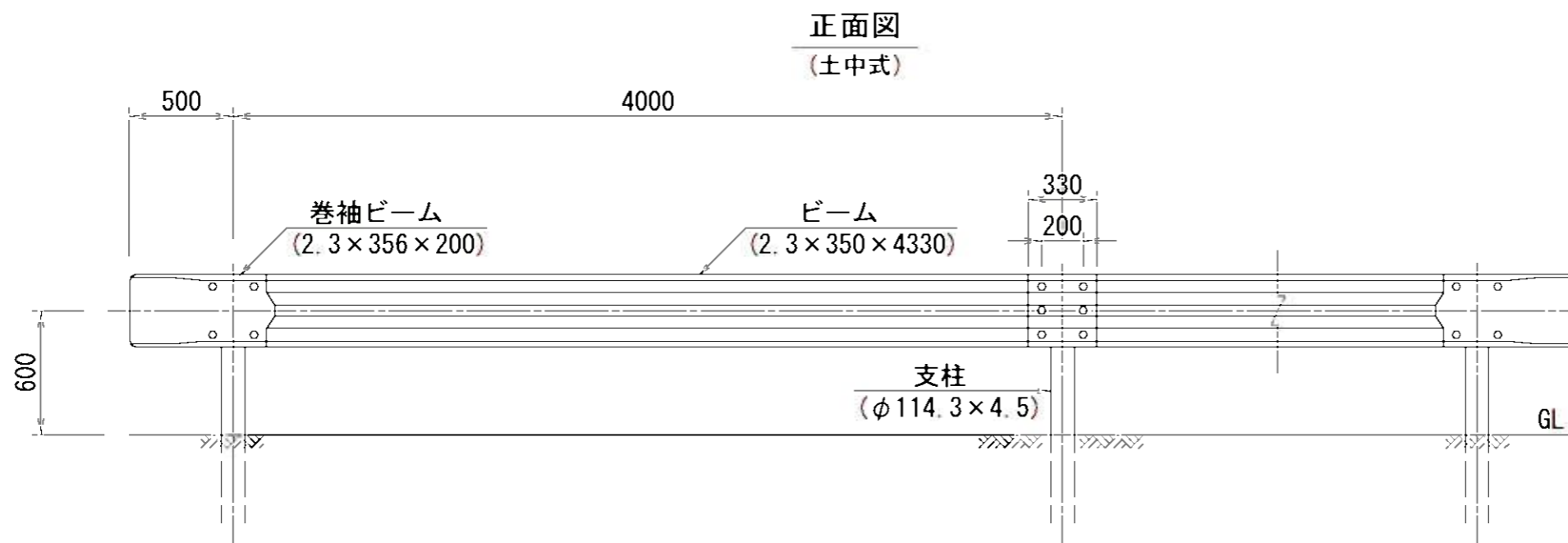
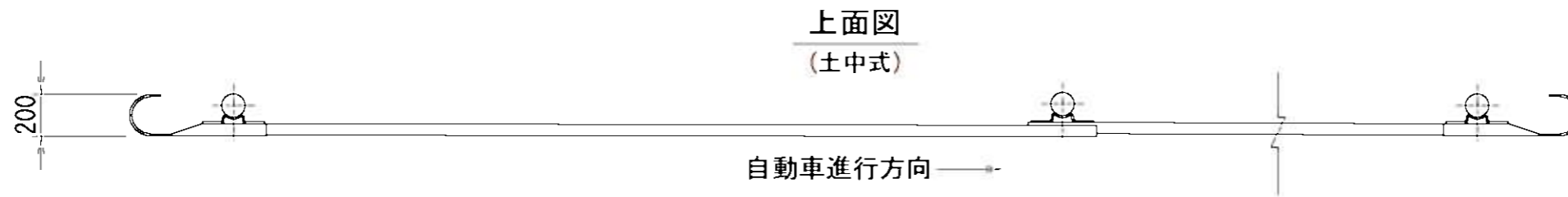
〈注意事項〉

- ビーム中心高さは、GLからの高さをいう。ただし、縁石、アスカーブ等のある場合は、その上端からの高さをいう。

補強筋配筋図



番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
203	02	GR	003	ガードレール (C種・土中式)	R2.07
	交通安全施設類	ガードレール	ガードレール (C種・土中式) - (Gr-C-4E)		S=1/30



材料表 (100m当り)

ガードレール (C種)
Gr-C-4E
(m)
100.0

〈仕様〉

- (1) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

〈適用条件〉

- (1) 防護柵の設置場所、種別及び型式の選定については、「防護柵の設置基準・同解説((社)日本道路協会)」および「車両用防護柵標準仕様・同解説((社)日本道路協会)」による。

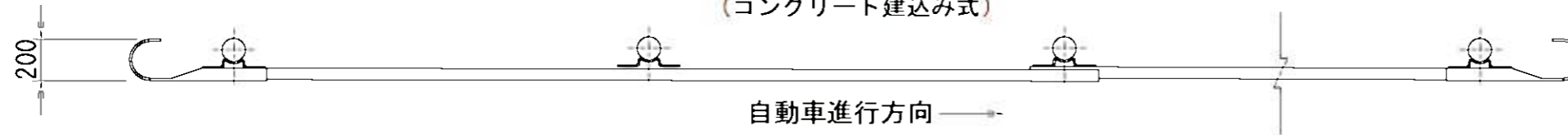
〈注意事項〉

- (1) ビーム中心高さは、GLからの高さをいう。ただし、縁石、アスカーブ等のある場合は、その上端からの高さをいう。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
204	02	GR	004	ガードレール (C種・コンクリート建込み式)	R2.07
	交通安全施設類	ガードレール	ガードレール (C種・コンクリート建込み式) - (Gr-C-2B)		S=1/30

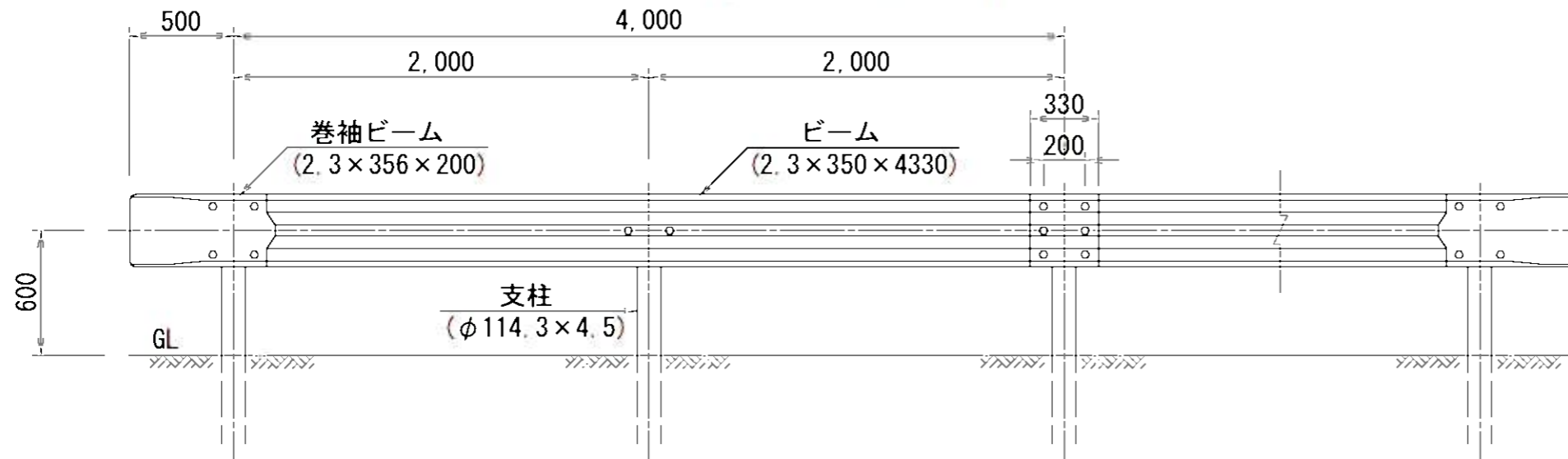
上面図

(コンクリート建込み式)



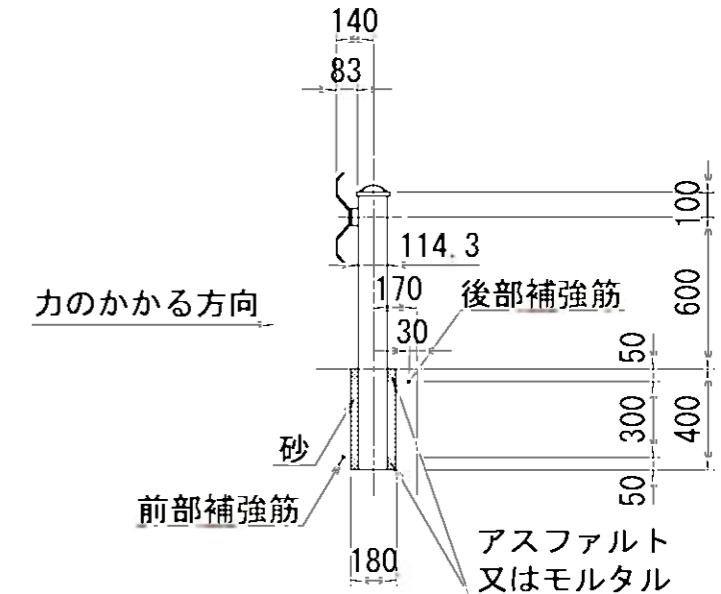
正面図

(コンクリート建込み式)



断面図

(コンクリート建込み式)



材料表

(20m当り)

ガードレール (C種)	砂	アスファルト又はモルタル	鉄筋
Gr-C-2B			D13
(m)	(m <sup>3</sup> )	(m <sup>3</sup> )	(t)
20.0	0.05	0.02	0.030

〈仕様〉

- コンクリート建込みの場合、構造物の当該部分が無筋コンクリート又は、それに近い場合補強鉄筋を別途計上する。また支柱と構造物の間隙には上下にアスファルト又はモルタルでシールし、中間部には砂を充填する。
- 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

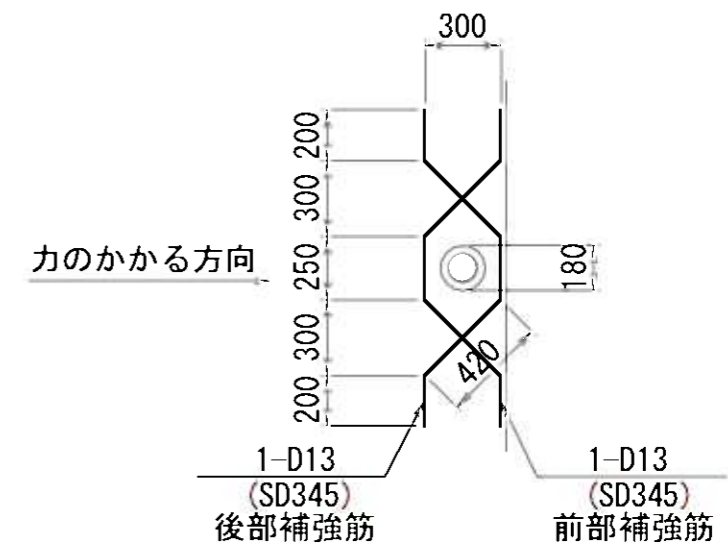
〈適用条件〉

- 防護柵の設置場所、種別及び型式の選定については、「防護柵の設置基準・同解説((社)日本道路協会)」および「車両用防護柵標準仕様・同解説((社)日本道路協会)」による。
- コンクリート設計基準強度24N/mm<sup>2</sup>の場合に適用。

〈注意事項〉

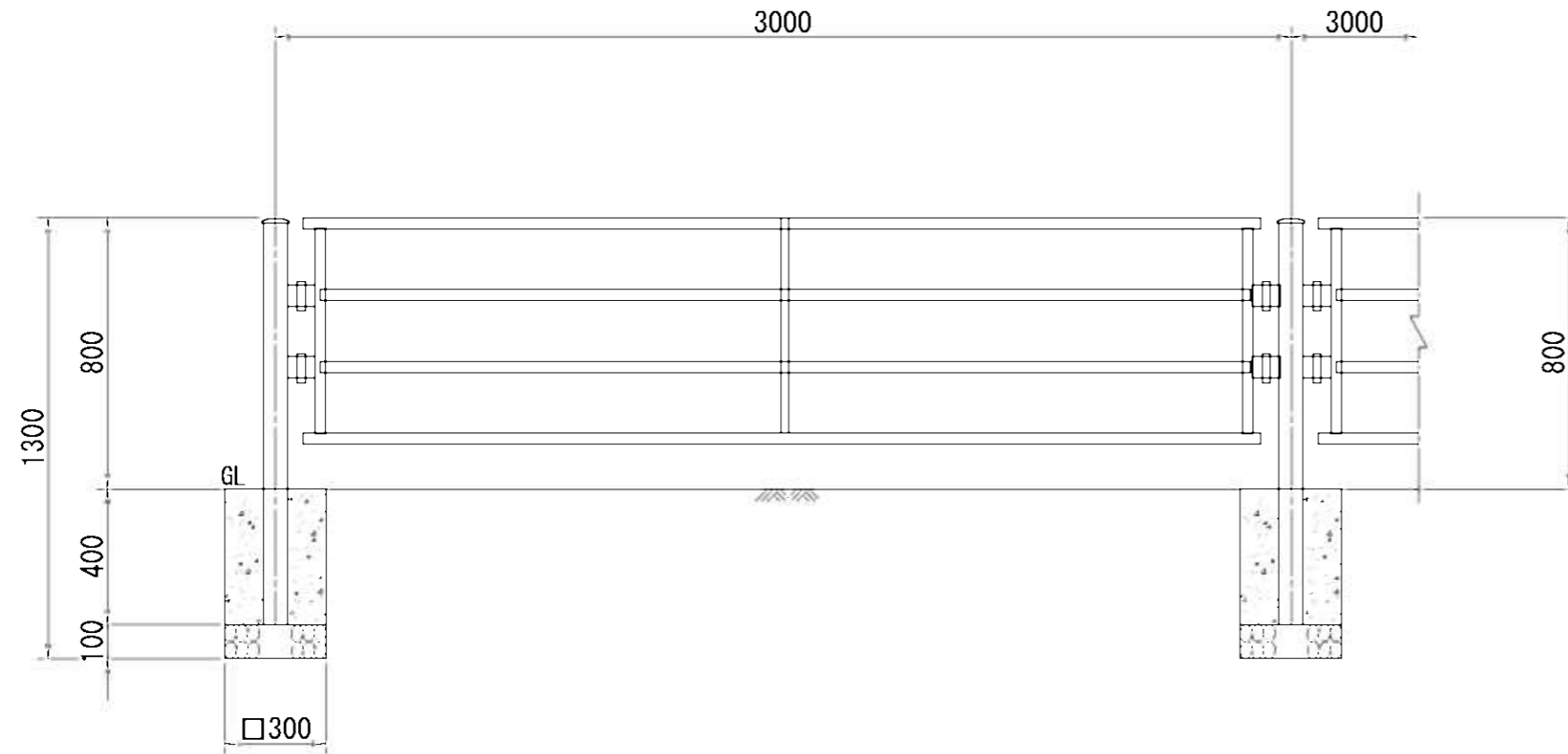
- ビーム中心高さは、GLからの高さをいう。ただし、縁石、アスカーブ等のある場合は、その上端からの高さをいう。

補強筋配筋図

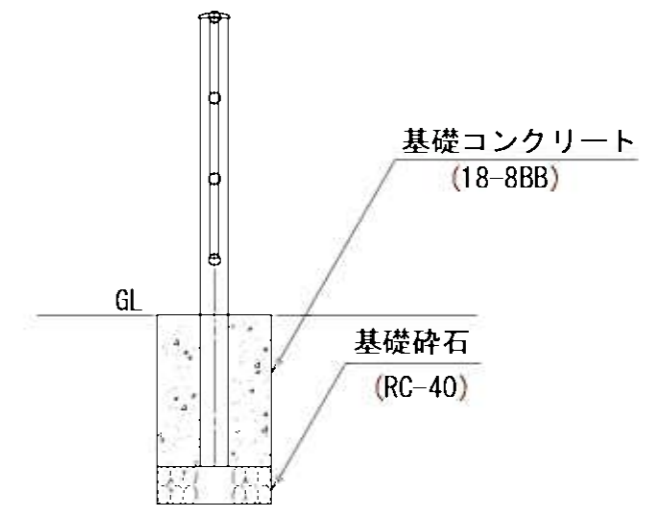


番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
205	02	TBS	001	転落（横断）防止柵（横棧型・現場打ち基礎）	R2.07
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（横棧型・現場打ち基礎） - (H=800)		S=1/20

正面図



断面図



材料表 (30m当り)

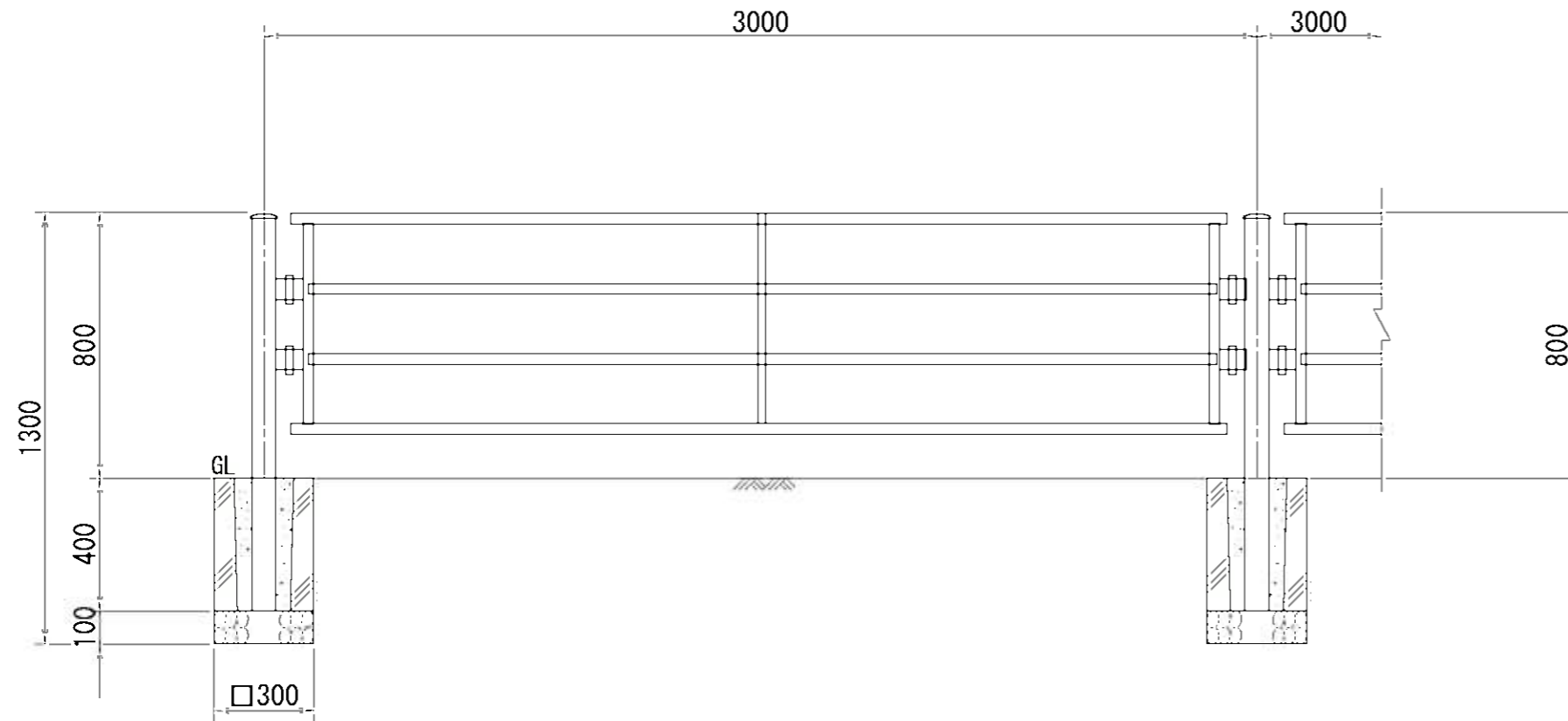
横断防止柵 (横棧型)	基礎コンクリート	基礎碎石	型枠
H=800	18-8BB	RC-40 t=100	
(m)	(m <sup>3</sup> )	(m <sup>2</sup> )	(m <sup>2</sup> )
30.0	0.36	0.90	4.8

〈仕様〉

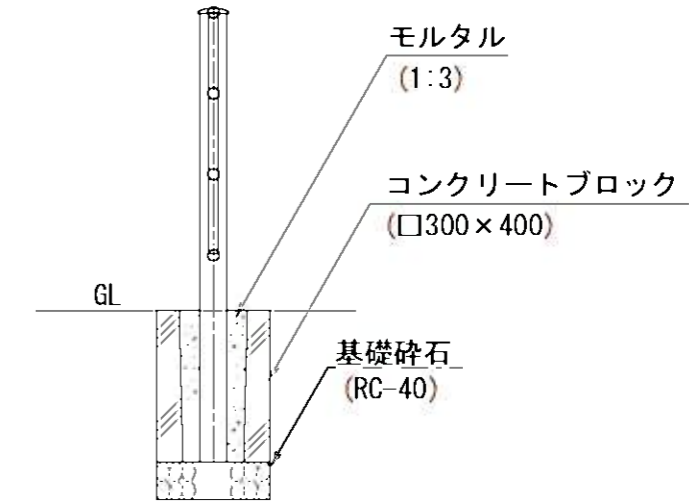
- (1) 設計強度の種別はP種とする。
- (2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
206	02	TBS	002	転落（横断）防止柵（横棧型・プレキャスト基礎）	R2.07
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（横棧型・プレキャスト基礎） - (H=800)		S=1/20

正面図



断面図



材料表

(30m当り)

横断防止柵 (横棧型)	コンクリートブロック	基礎碎石
H=800	□300×400	RC-40 t=100
(m)	(個)	(m <sup>2</sup> )
30.0	10.0	0.90

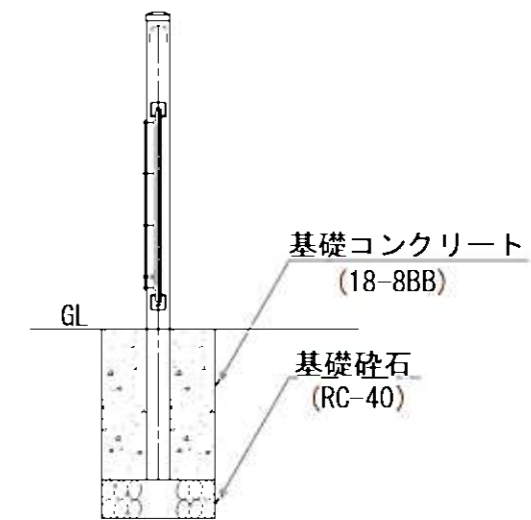
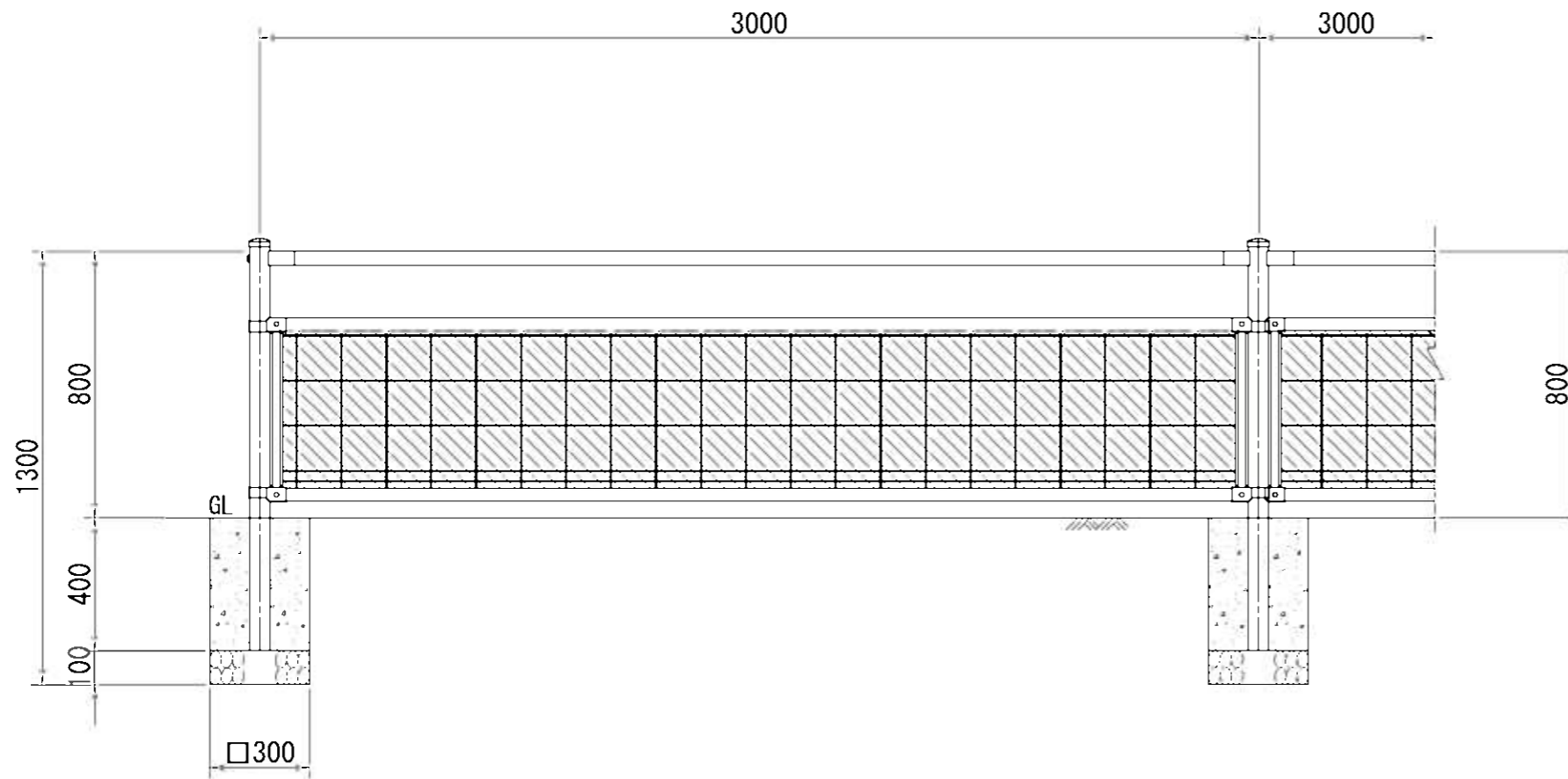
<仕様>

- (1) 設計強度の種別はP種とする。
- (2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
207	02	TBS	003	転落（横断）防止柵（植栽兼用・現場打ち基礎）	R2.07
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（植栽兼用・現場打ち基礎） - (H=800)		S=1/20

正面図

断面図



材料表 (30m当り)

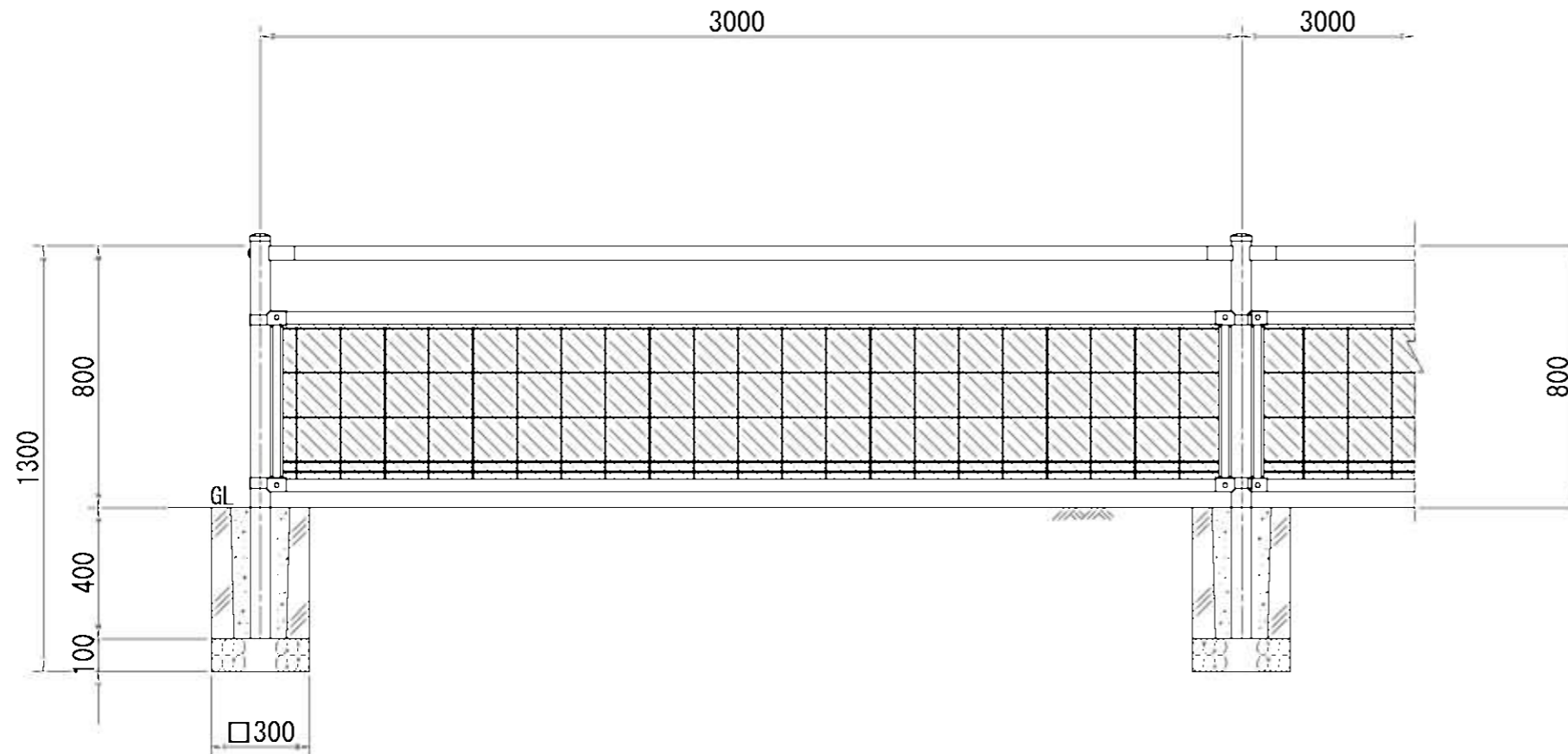
横断防止柵 (植栽兼用)	基礎コンクリート	基礎碎石	型枠
H=800	18-8BB	RC-40 t=100	
(m)	(m3)	(m2)	(m2)
30.0	0.36	0.90	4.8

<仕様>

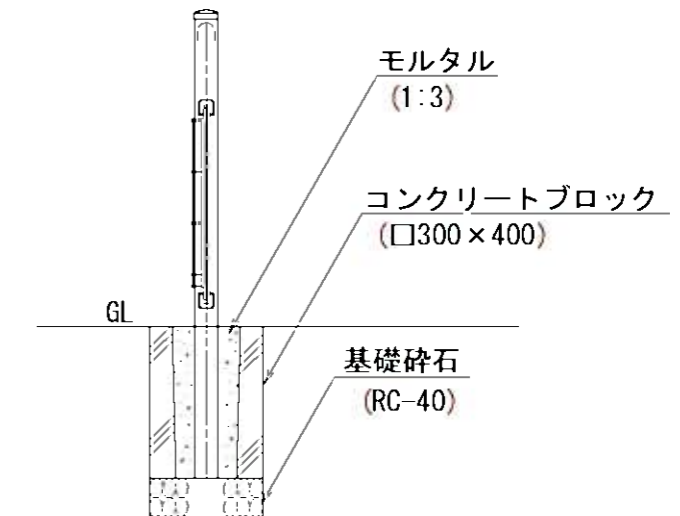
- (1) 設計強度の種別はP種とする。
- (2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
208	02	TBS	004	転落（横断）防止柵（植栽兼用・プレキャスト基礎）	R2.07
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（植栽兼用・プレキャスト基礎） - (H=800)		S=1/20

正面図



断面図



材料表 (30m当り)

横断防止柵 (植栽兼用)	コンクリートブロック	基礎碎石
H=800	□300×400	RC-40 t=100
(m)	(個)	(m <sup>2</sup> )
30.0	10.0	0.90

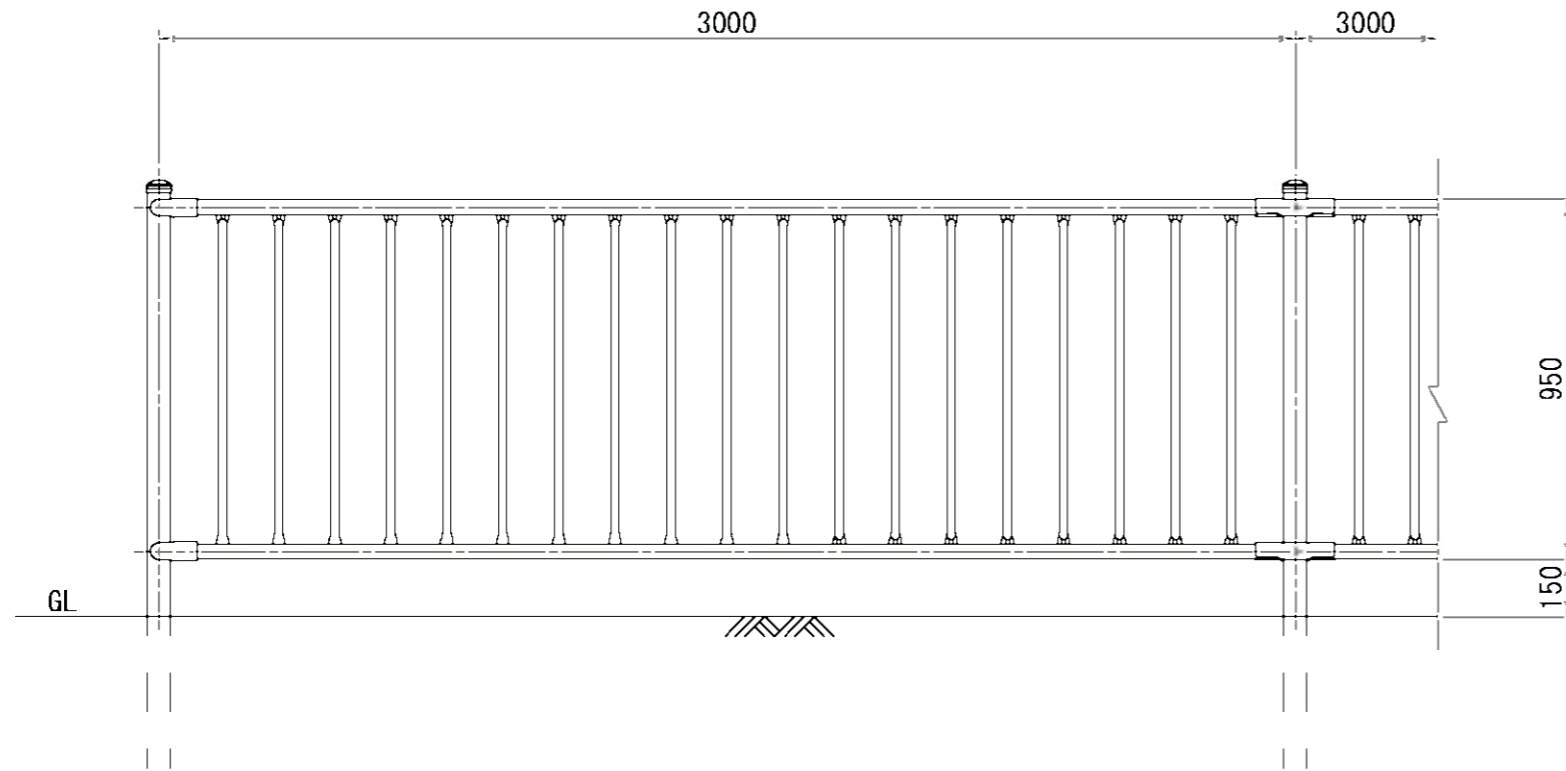
<仕様>

- (1) 設計強度の種別はP種とする。
- (2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

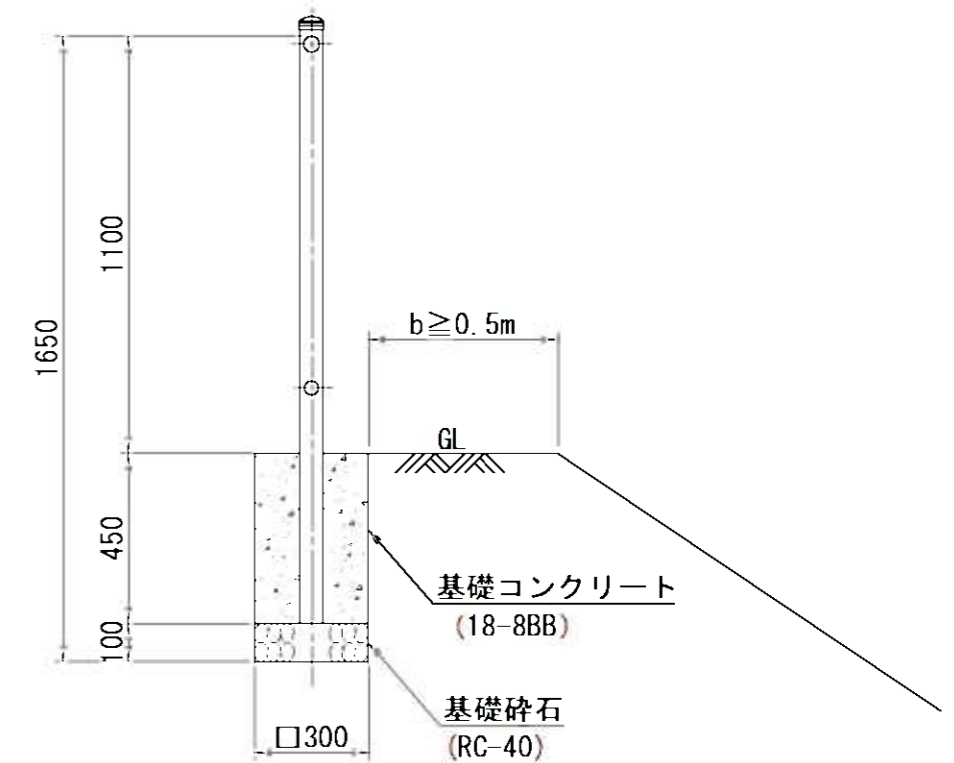


番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
209	02	TBS	005	転落（横断）防止柵（縦棧型・現場打ち基礎）	R2.07
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（縦棧型・現場打ち基礎） - (H=1100)		S=1/20

正面図



断面図



材料表 (30m当り)

転落防止柵 (縦棧型)	基礎コンクリート	基礎碎石	型枠
H=1100	18-8BB	RC-40 t=100	
(m)	(m <sup>3</sup> )	(m <sup>2</sup> )	(m <sup>2</sup> )
30.0	0.41	0.90	5.4

<注意事項>

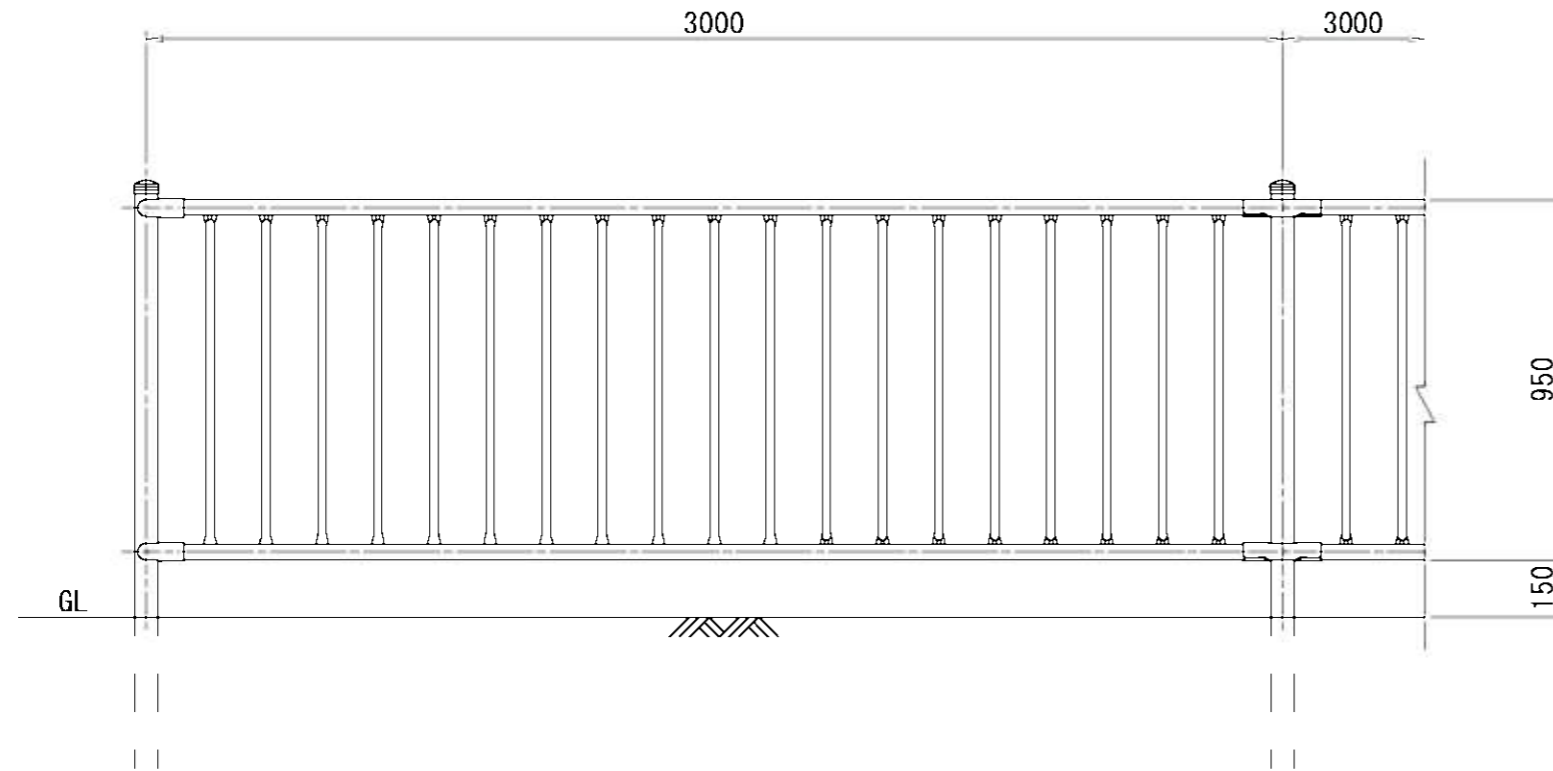
埋込深さ450mmは、路肩側方余裕幅50cm以上で中位以上の地耐力を有する土質条件（N値10程度の砂質地盤）の場合である。

<仕様>

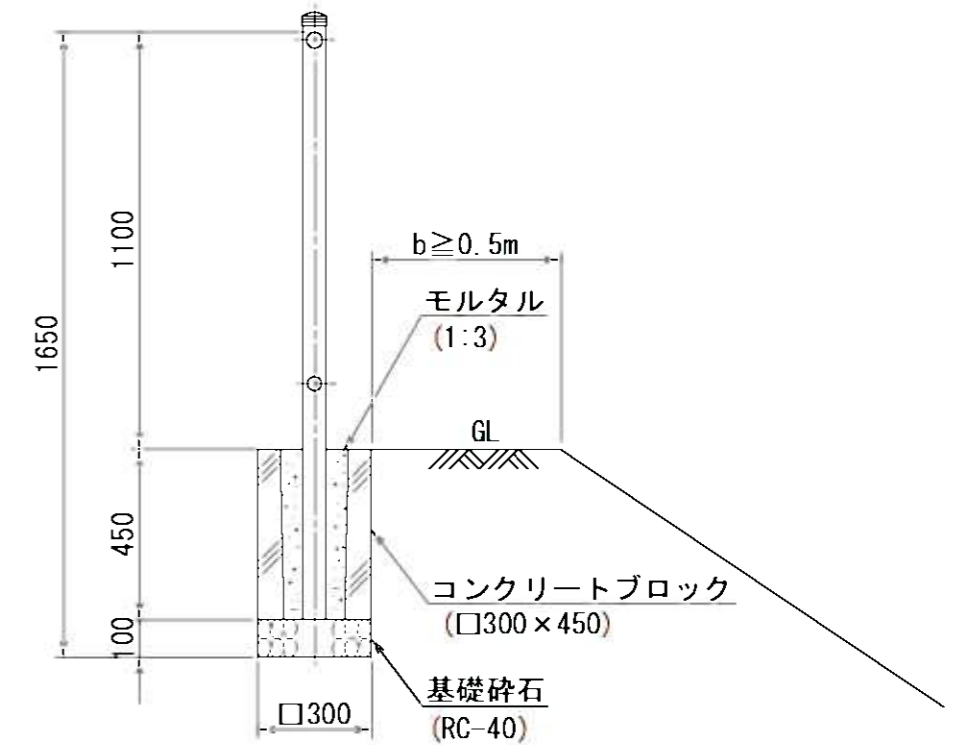
- (1) 設計強度の種別は、P種とする。
- (2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
210	02	TBS	006	転落（横断）防止柵（縦棧型・プレキャスト基礎）	R2.07
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（縦棧型・プレキャスト基礎） - (H=1100)		S=1/20

正面図



断面図



材料表 (30m当り)

横断防止柵 (縦棧型)	コンクリートブロック	基礎碎石
H=1100	□300×450	RC-40 t=100
(m)	(個)	(m <sup>2</sup> )
30.0	10.0	0.90

〈注意事項〉

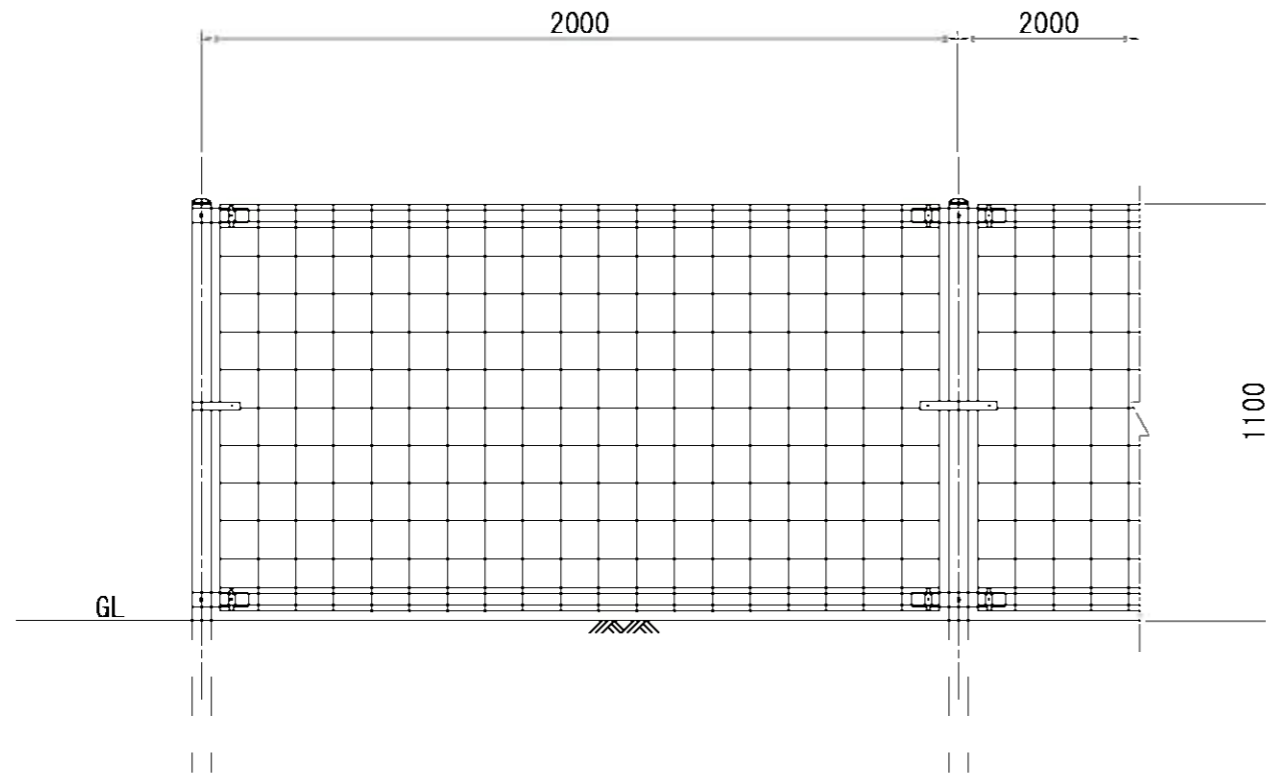
埋込深さ450mmは、路肩側方余裕幅50cm以上で中位以上の地耐力を有する土質条件（N値10程度の砂質地盤）の場合である。

〈仕様〉

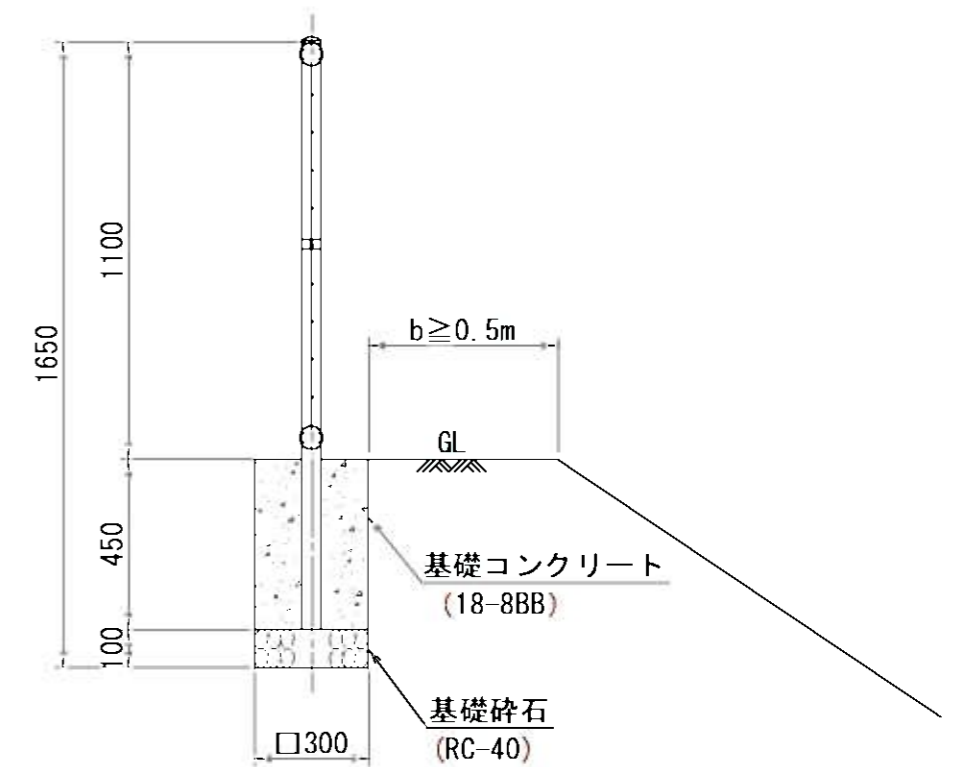
- (1) 設計強度の種別は、P種とする。
- (2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
211	02	TBS	007	転落（横断）防止柵（メッシュ・現場打ち基礎）	R2.07
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（メッシュ・現場打ち基礎） - (H=1100)		S=1/20

正面図



断面図



材料表 (30m当り)

横断防止柵 (メッシュ)	基礎コンクリート	基礎碎石	型枠
H=1100	18-8BB	RC-40 t=100	
(m)	(m <sup>3</sup> )	(m <sup>2</sup> )	(m <sup>2</sup> )
30.0	0.61	1.4	8.1

<注意事項>

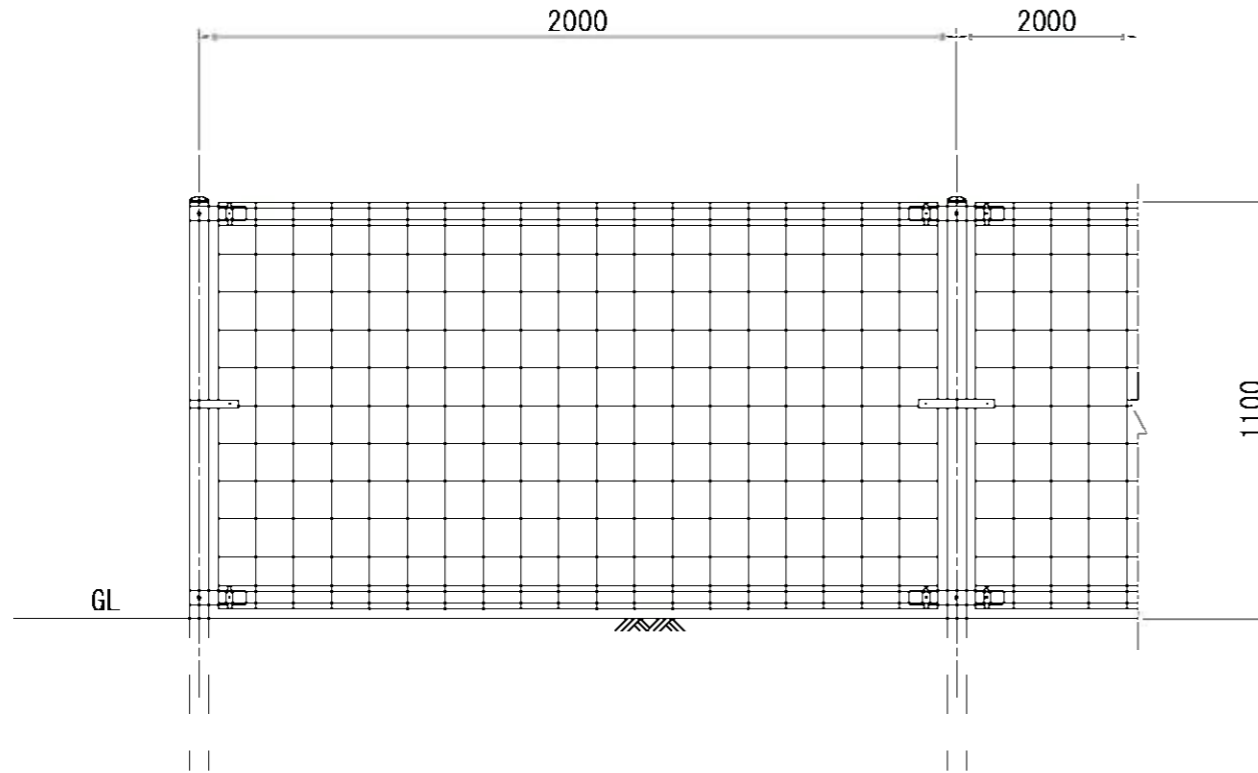
埋込深さ450mmは、路肩側方余裕幅50cm以上で中位以上の地耐力を有する土質条件（N値10程度の砂質地盤）の場合である。

<仕様>

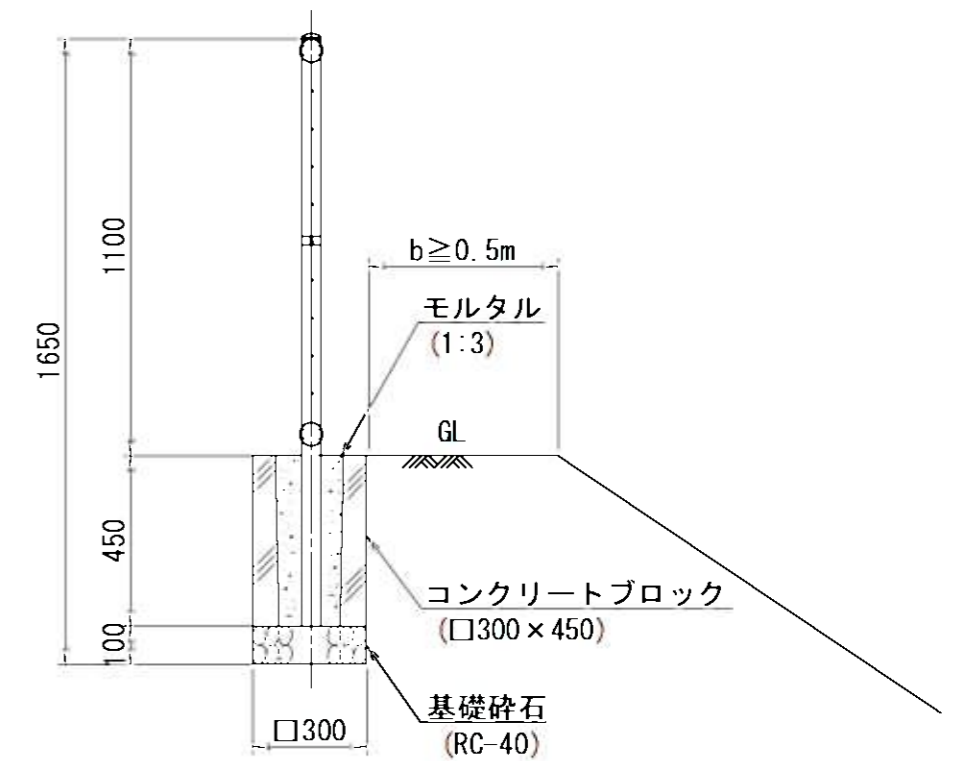
- (1) 設計強度の種別は、P種とする。
- (2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
212	02	TBS	008	転落（横断）防止柵（メッシュ・プレキャスト基礎）	R2.07
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（メッシュ・プレキャスト基礎） - (H=1100)		S=1/20

正面図



断面図



材料表 (30m当り)

転落防止柵 (メッシュ)	コンクリートブロック	基礎砕石
H=1100	□300×450	RC-40 t=100
(m)	(個)	(m <sup>2</sup> )
30.0	15.0	1.4

<注意事項>

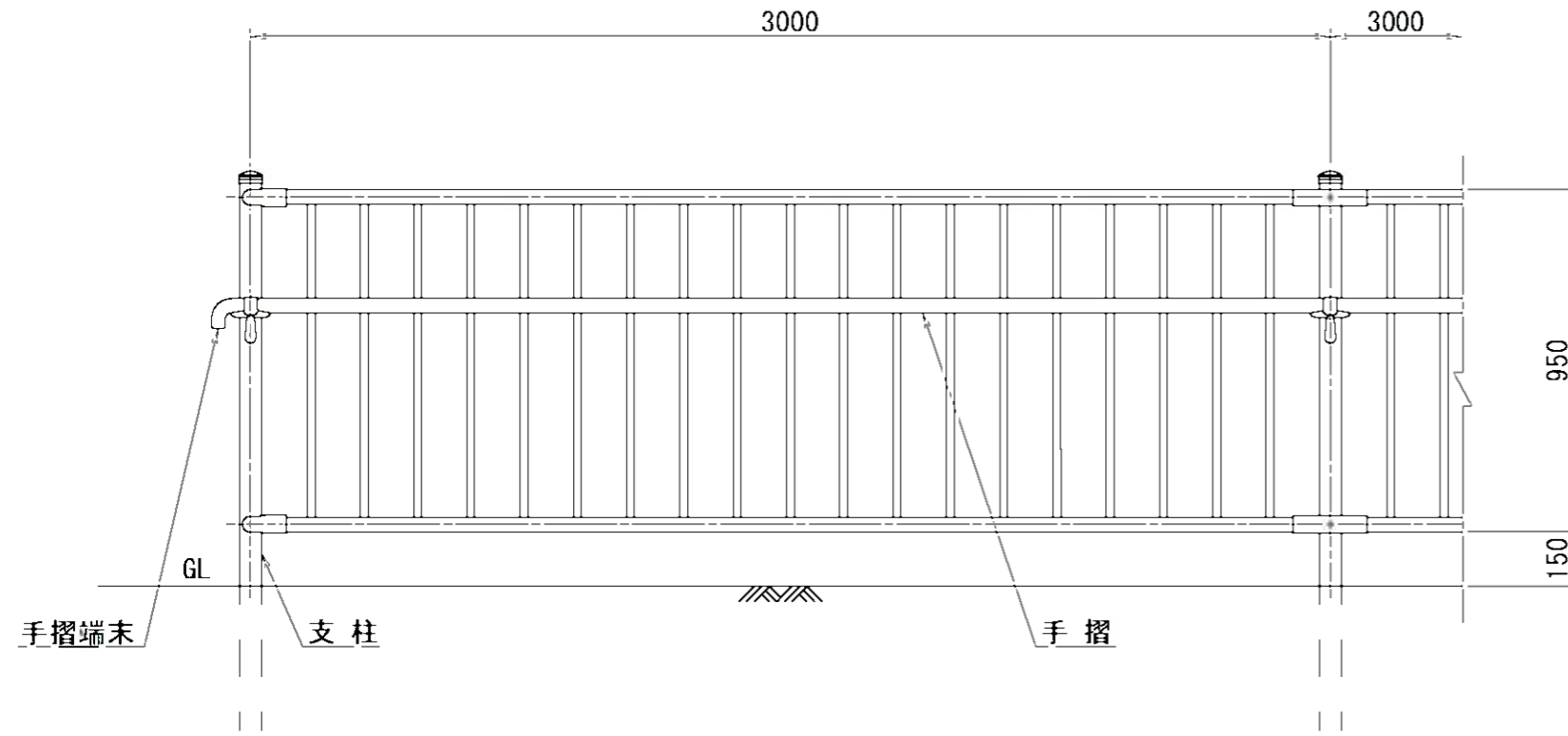
埋込深さ450mmは、路肩側方余裕幅50cm以上で中位以上の地耐力を有する土質条件（N値10程度の砂質地盤）の場合である。

<仕様>

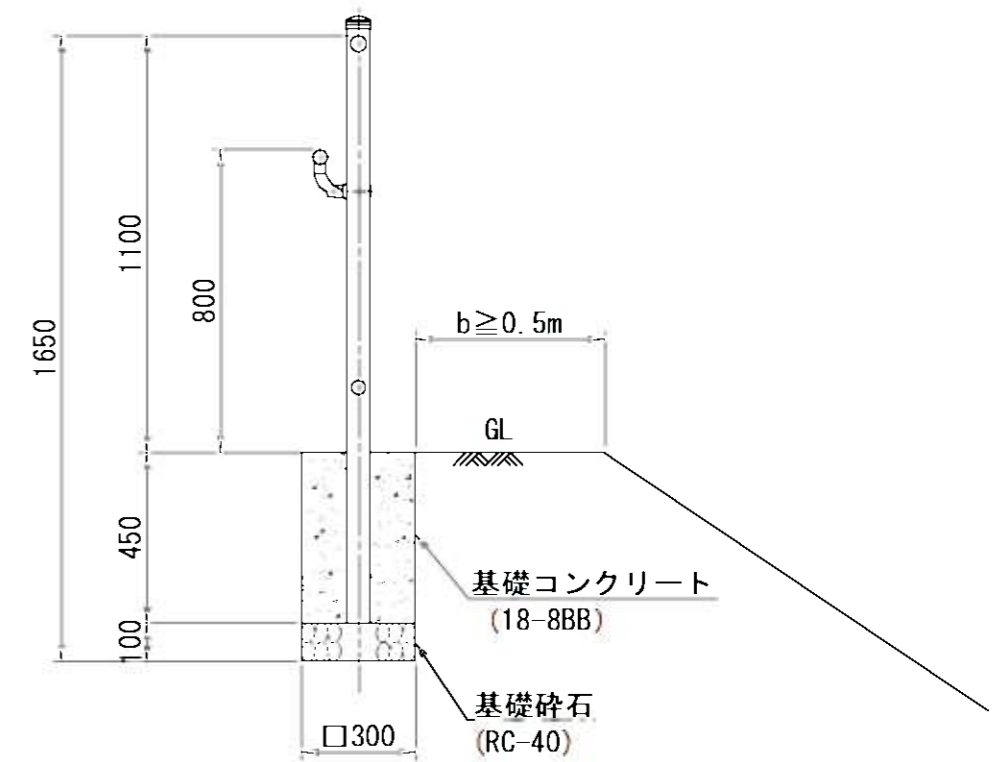
- (1) 設計強度の種別は、P種とする。
- (2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
213	02	TBS	009	転落（横断）防止柵（縦棧型・手摺付現場打ち基礎）	R2.07
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（縦棧型・手摺付現場打ち基礎） - (H=1100)		S=1/20

正面図



断面図



材料表 (30m当り)

転落防止柵 (縦棧型手摺付)	基礎コンクリート	基礎砕石	型枠
H=1100	18-8BB	RC-40 t=100	
(m)	(m3)	(m2)	(m2)
30.0	0.41	0.90	5.4

<注意事項>

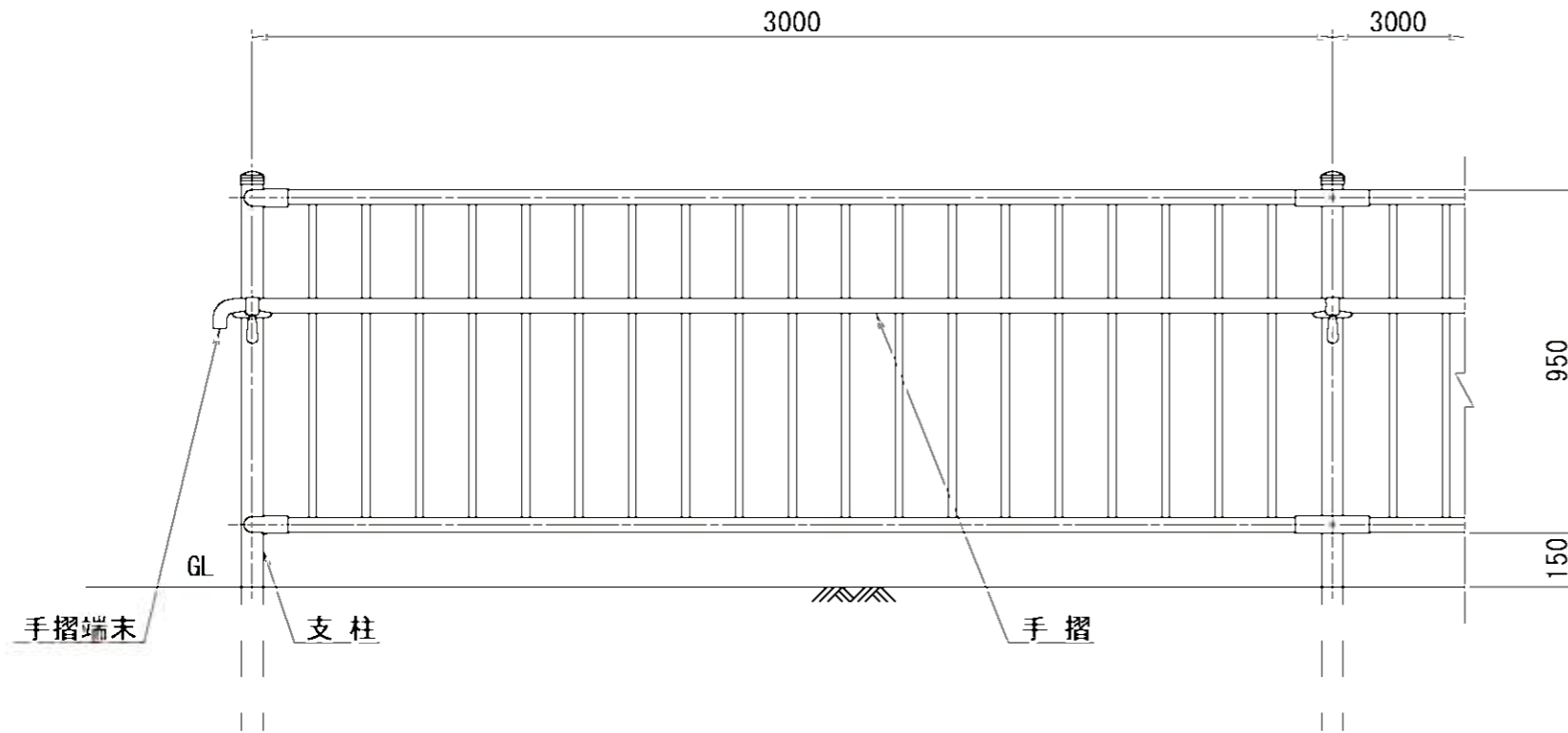
埋込深さ450mmは、路肩側方余裕幅50cm以上で中位以上の地耐力を有する土質条件（N値10程度の砂質地盤）の場合である。

<仕様>

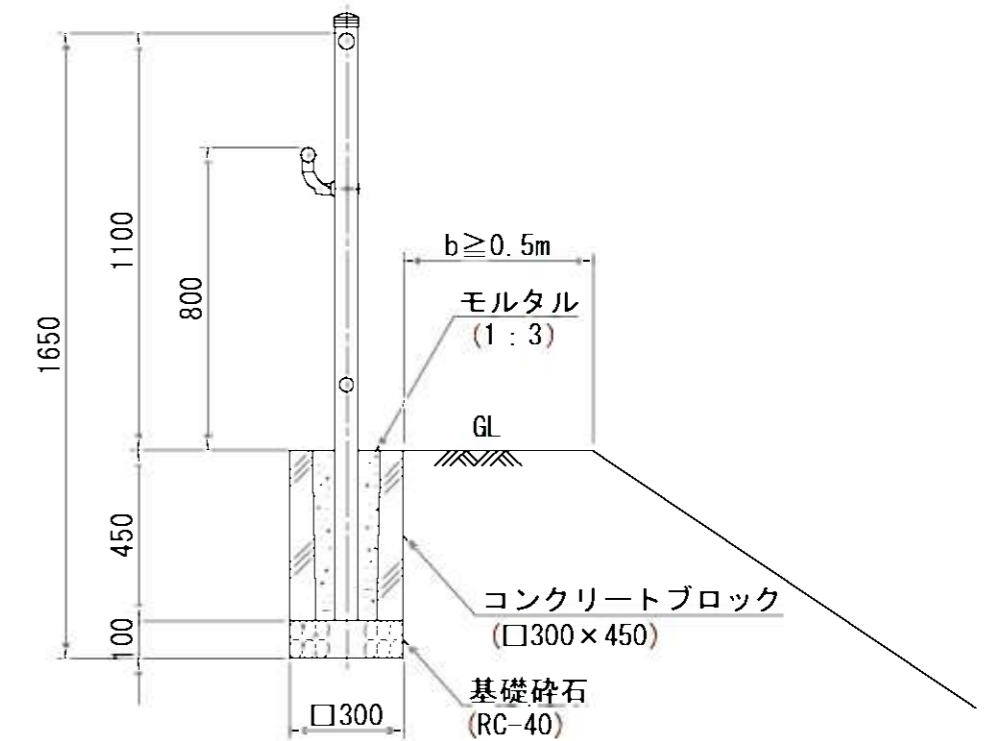
- (1) 設計強度の種別は、P種とする。
- (2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
214	02	TBS	010	転落（横断）防止柵（縦棧型・手摺付プレキャスト基礎）	R2.07
	交通安全施設類	転落（横断）防止柵	転落（横断）防止柵（縦棧型・手摺付プレキャスト基礎）		S=1/20

正面図



断面図



材料表 (30m当り)

転落防止柵 (縦棧型手摺付)	コンクリートブロック	基礎碎石
H=1100	□300×450	RC-40 t=100
(m)	(個)	(m <sup>2</sup> )
30.0	10.0	0.90

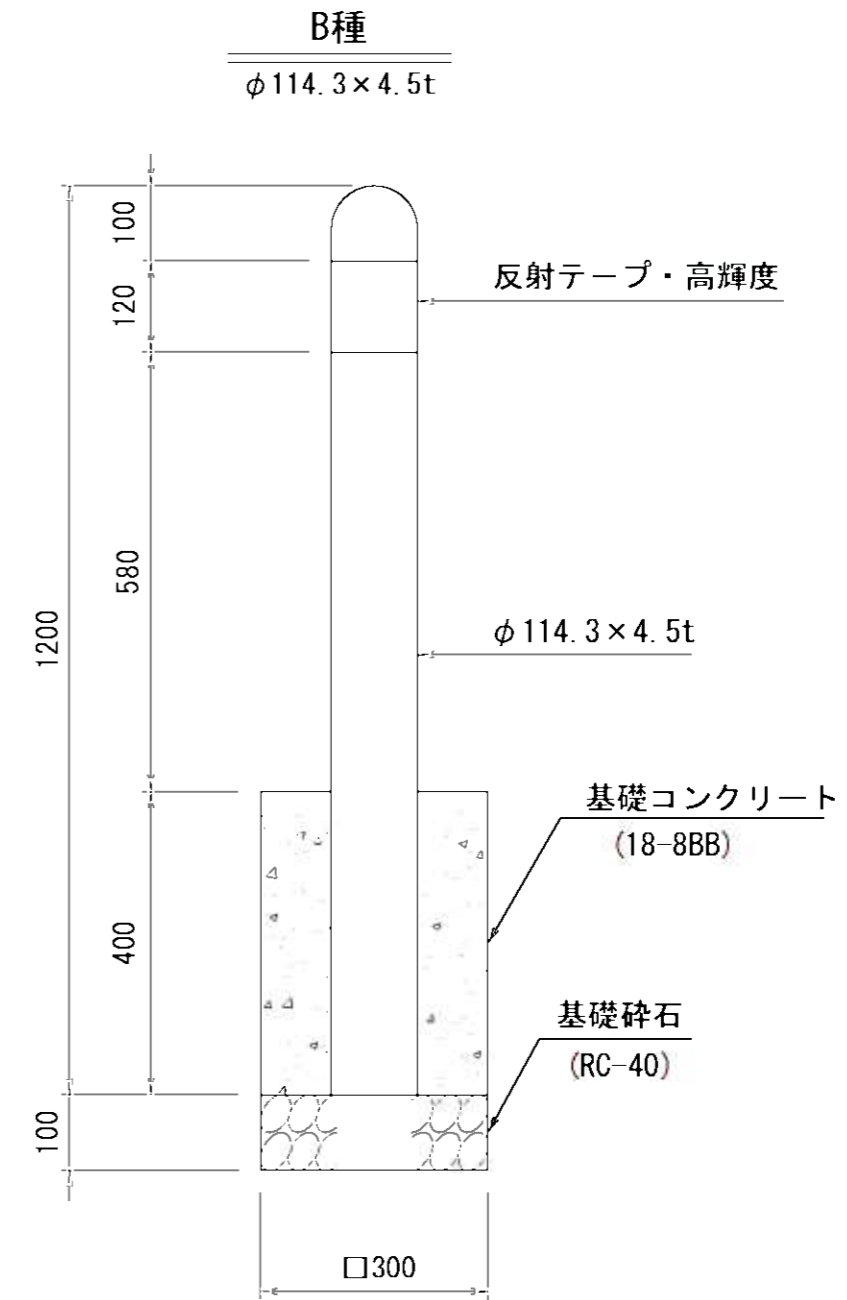
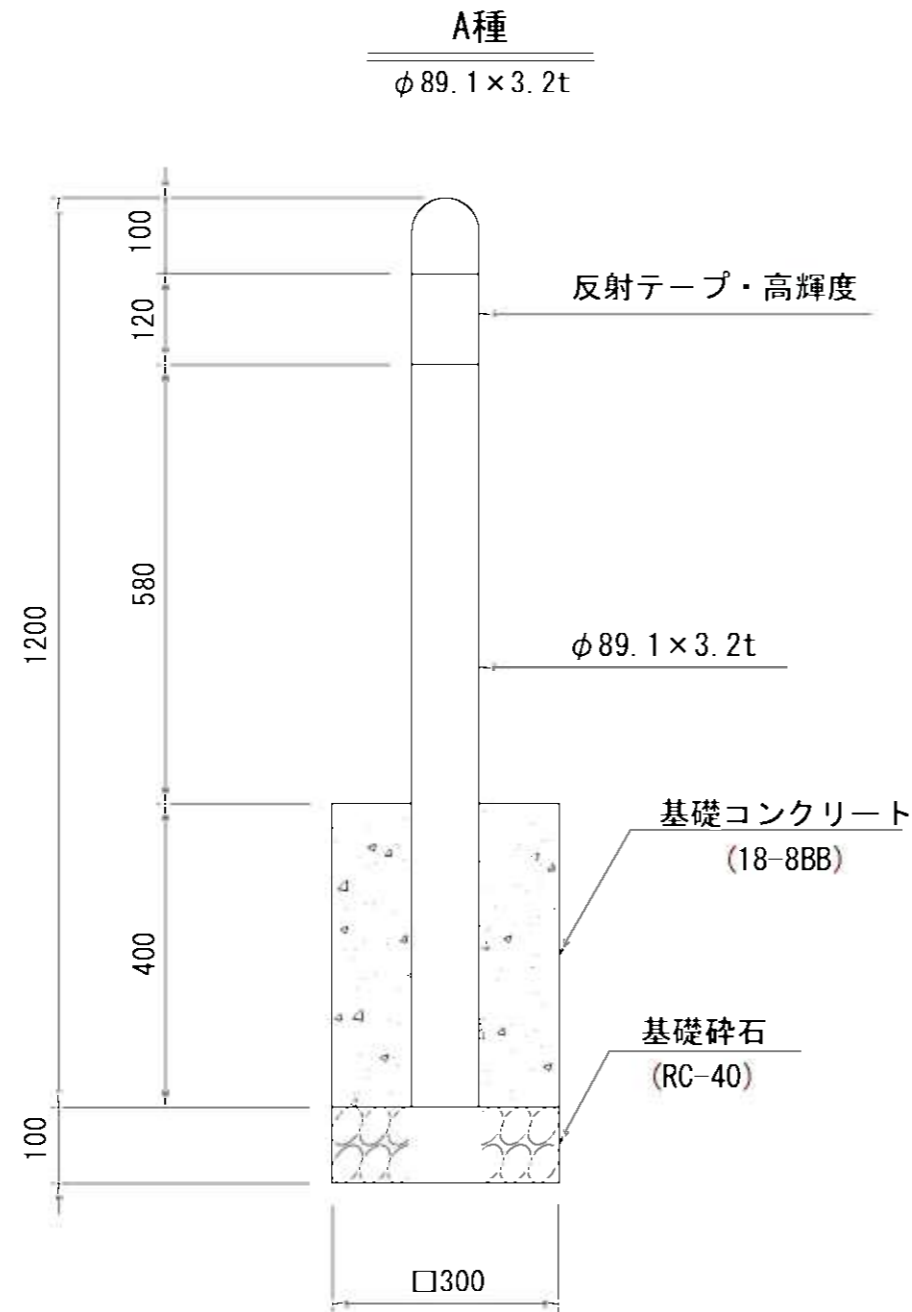
〈注意事項〉

埋込深さ450mmは、路肩側方余裕幅50cm以上で中位以上の地耐力を有する土質条件（N値10程度の砂質地盤）の場合である。

〈仕様〉

- (1) 設計強度の種別は、P種とする。
- (2) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間景観形成ガイドライン」による。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
215	02	KP	001	車止めポスト	R2.07
	交通安全施設類	車止めポスト	車止めポスト (A種・B種)		S=1/10



材料表

(10本当り)

材料 形状・寸法	車止めポスト		反射テープ	基礎碎石	型枠	基礎コンクリート
	規格	(本)	(枚)	RC-40 t=100 (m <sup>2</sup> )	(m <sup>2</sup> )	18-8BB (m <sup>3</sup> )
A種	φ89.1×3.2t	10.0	10.0	0.90	4.8	0.36
B種	φ114.3×4.5t	10.0	10.0	0.90	4.8	0.36

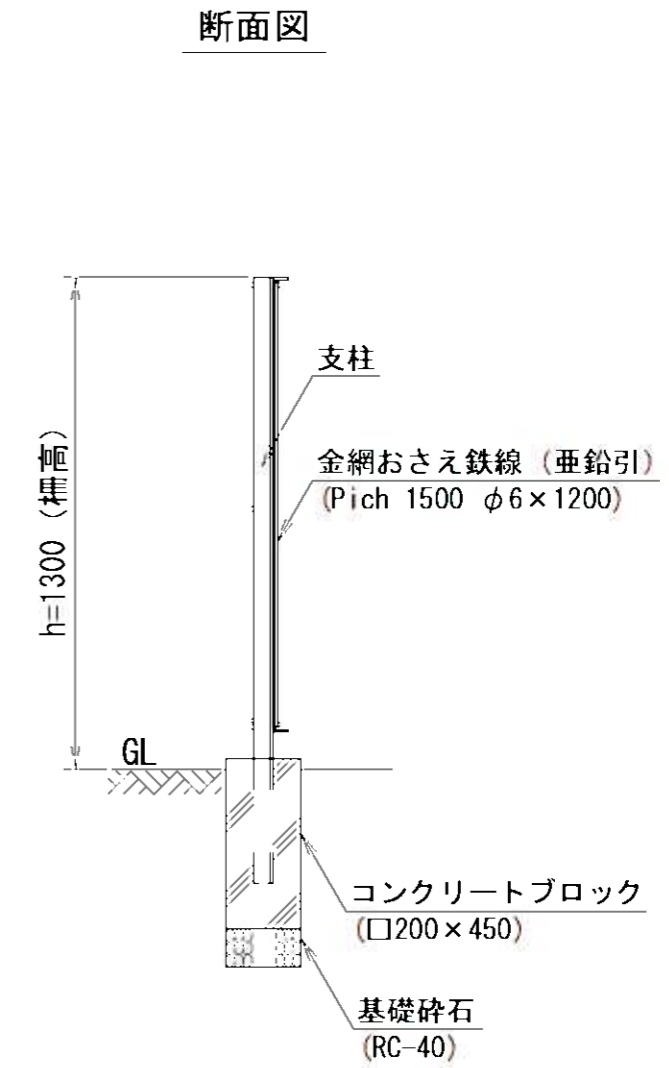
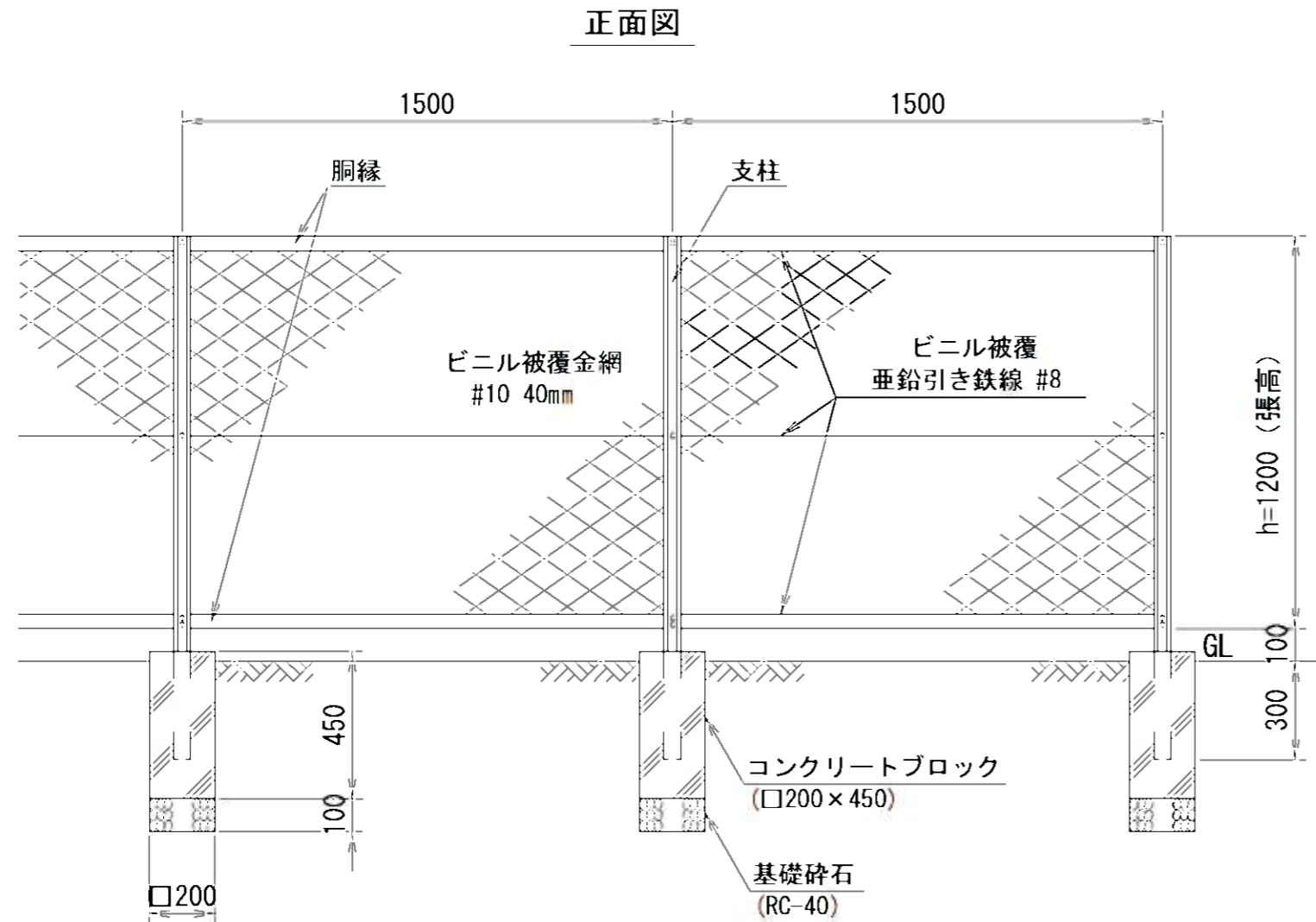
〈仕様〉

- (1) 色については設計図書等で指定がある場合を除き「公共空間 景観形成ガイドライン」による。
- (2) 反射テープ部分は、厚さ分凹んでいること。

〈適用条件〉

- A種：歩道一般部  
B種：歩道巻込部

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
216	02	NF	001	ネットフェンス	R2.07
	交通安全施設類	ネットフェンス	ネットフェンス		S=1/20



材料表 (30m当り)

支柱	胴縁	金網その他	コンクリートブロック	基礎砕石
t=2.3, H=40, L=1,600	L=40×40×3×10,000	金網#10, 網目40mm 鉄線#8, おさえ鉄線φ6mm	□200×450	RC-40 t=100
(本)	(本)	(式)	(個)	(m <sup>2</sup> )
20.0	40.0	1.0	20.0	0.80

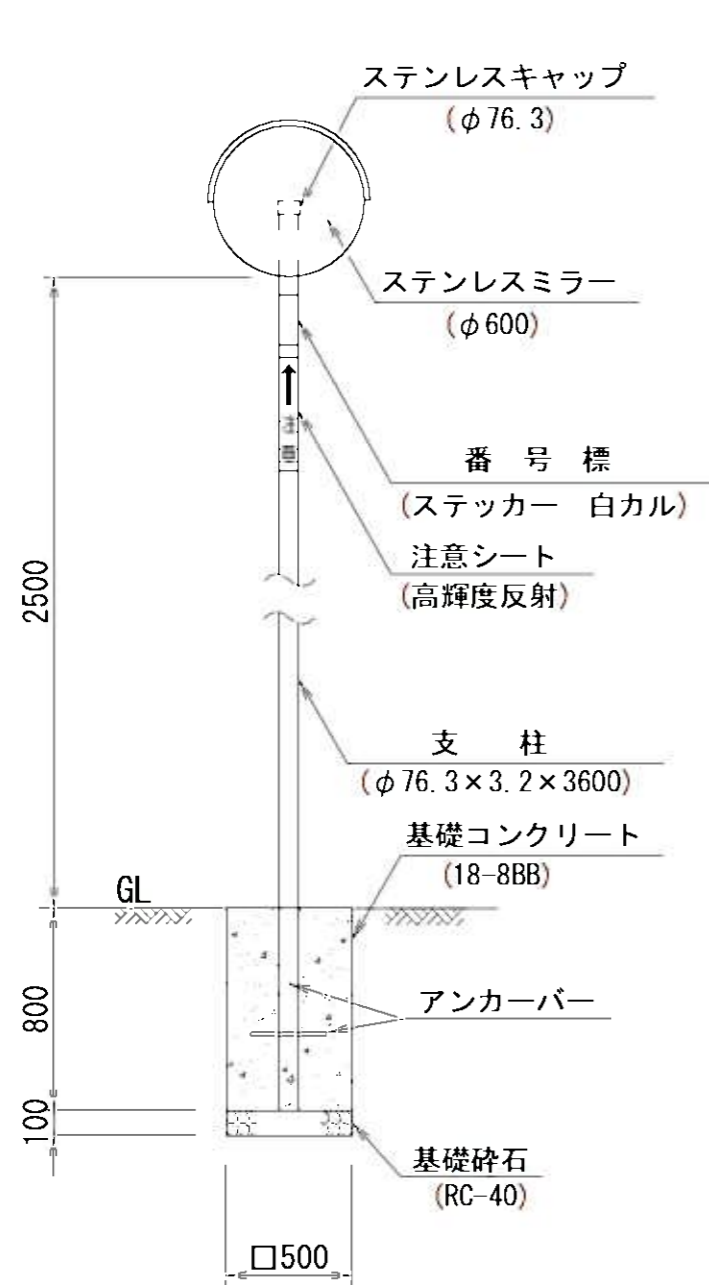
〈注意事項〉

- (1) 図面表示は各メーカーによって製品が異なるので、上記の通りとし、完成図には詳細寸法を明示する。
- (2) 垂直・水平荷重は作用しない箇所に設置すること。

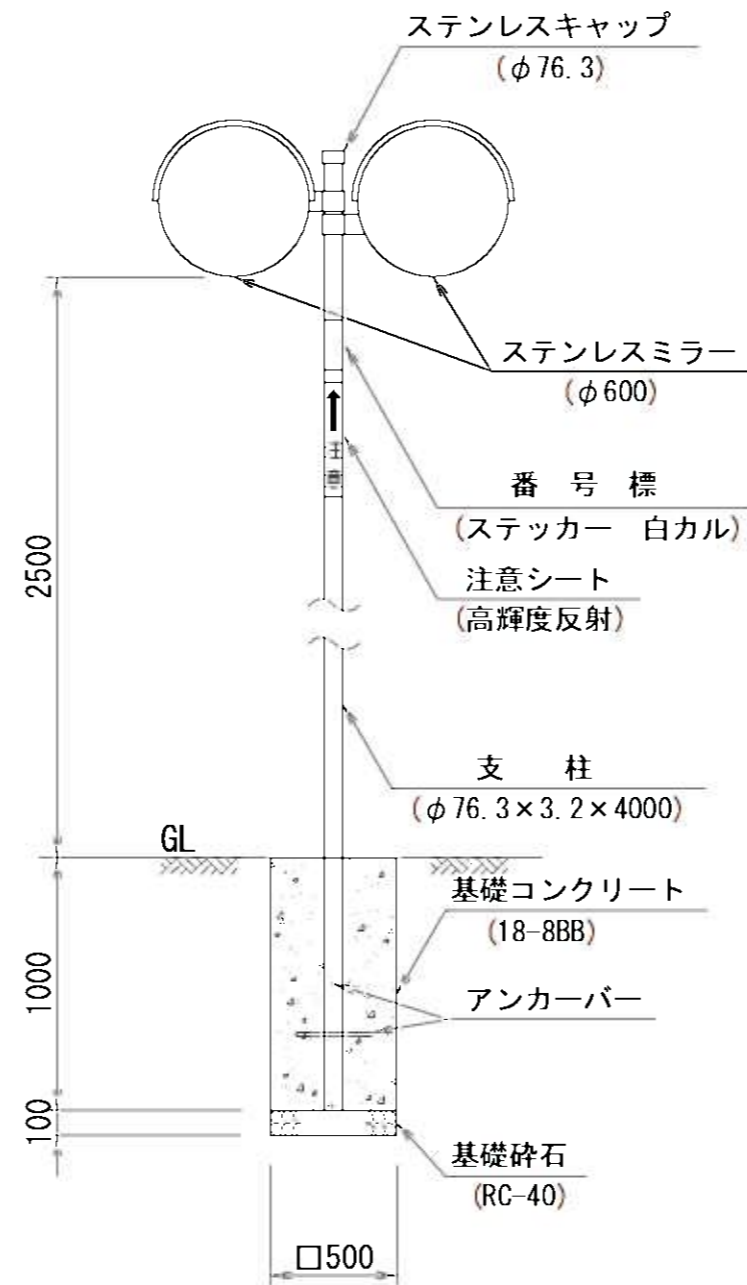


番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
217	02	DH	001	道路反射鏡 (φ600・未舗装)	R2.07
	交通安全施設類	道路反射鏡	道路反射鏡 (φ600・未舗装)		S=1/30

1面鏡



2面鏡



材料表(1)

材料	(10基当り)			
	道路反射鏡	基礎碎石	型枠	基礎コンクリート
φ600	RC-40 t=100		18-8BB	
形状・寸法	(面)	(m2)	(m2)	(m3)
1面鏡	10.0	2.5	16.0	2.0
2面鏡	20.0	2.5	20.0	2.5

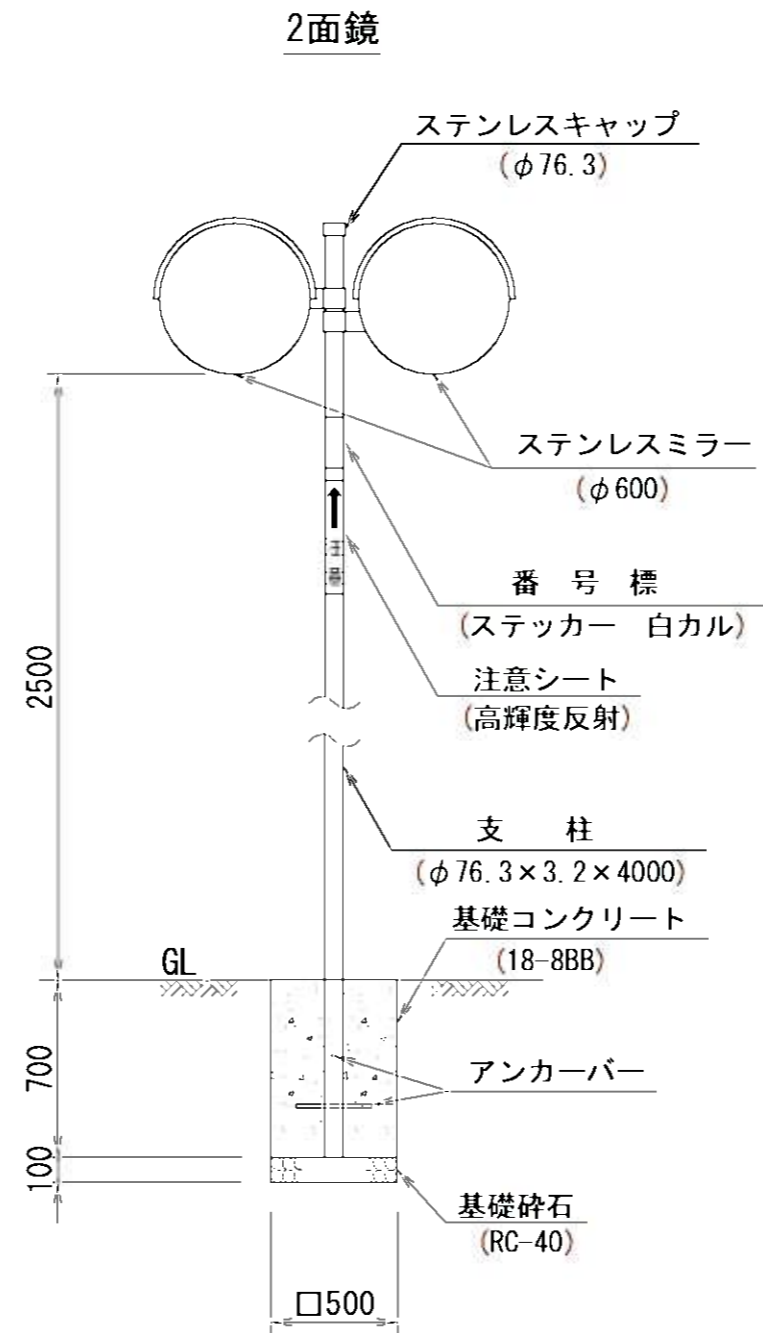
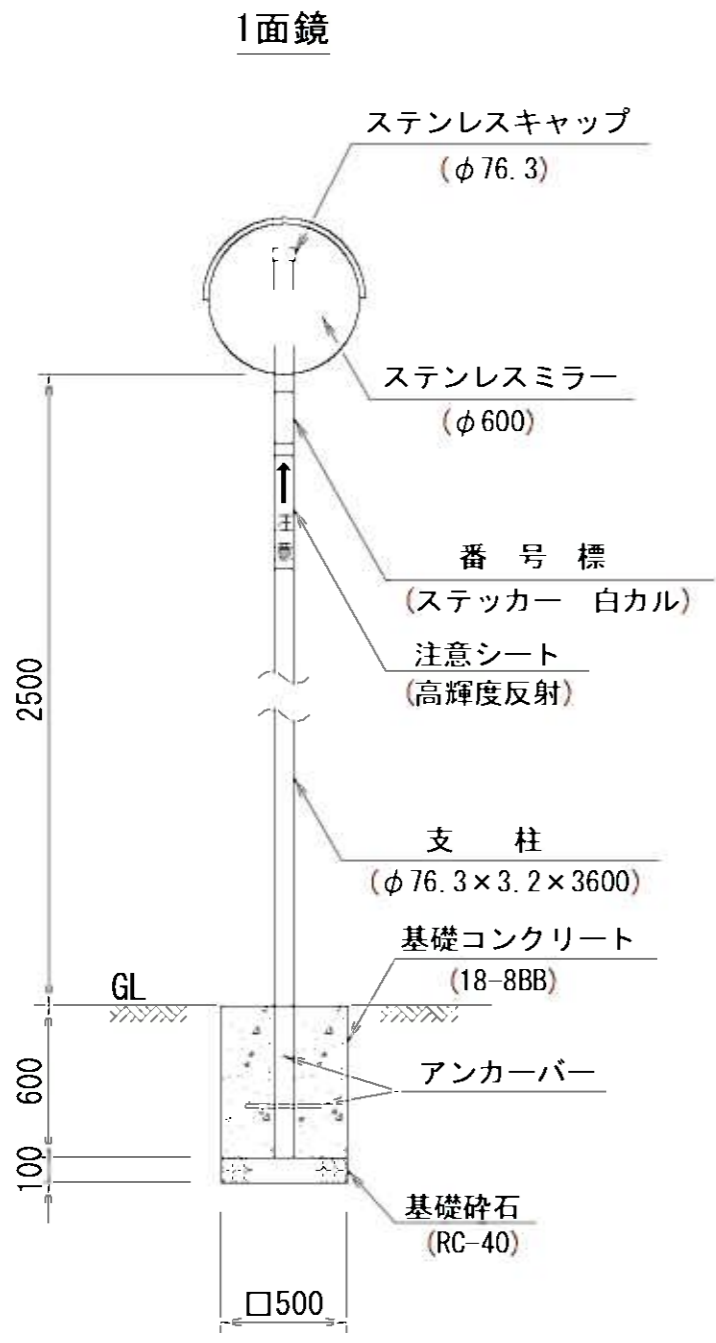
材料表(2)

材料	(10基当り)				
	支柱	ステンレスキャップ	道路反射鏡取付金具	注意シート	番号標
形状・寸法	(本)	(個)	(組)	(枚)	(枚)
1面鏡	10.0	10.0	—	10.0	10.0
2面鏡	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0

〈注意事項〉

- (1) 型枠については、4面に設置することを想定し、数量を算出している。これにより難しい場合は別途計算を行うこと。
- (2) 狭い幅員の道路において、道路端に側溝等がある場合は曲支柱を用いたり、路端側の余堀をなくし、鏡面が路端にくる様に考慮すること。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
218	02	DH	002	道路反射鏡 (φ600・舗装)	R2.07
	交通安全施設類	道路反射鏡	道路反射鏡 (φ600・舗装)		S=1/30



材料表 (1) (10基当り)

材料	道路反射鏡	基礎碎石	型枠	基礎コンクリート
	φ600	RC-40 t=100		18-8BB
形状・寸法	(面)	(m <sup>2</sup> )	(m <sup>2</sup> )	(m <sup>3</sup> )
1面鏡	10.0	2.5	12.0	1.5
2面鏡	20.0	2.5	14.0	1.8

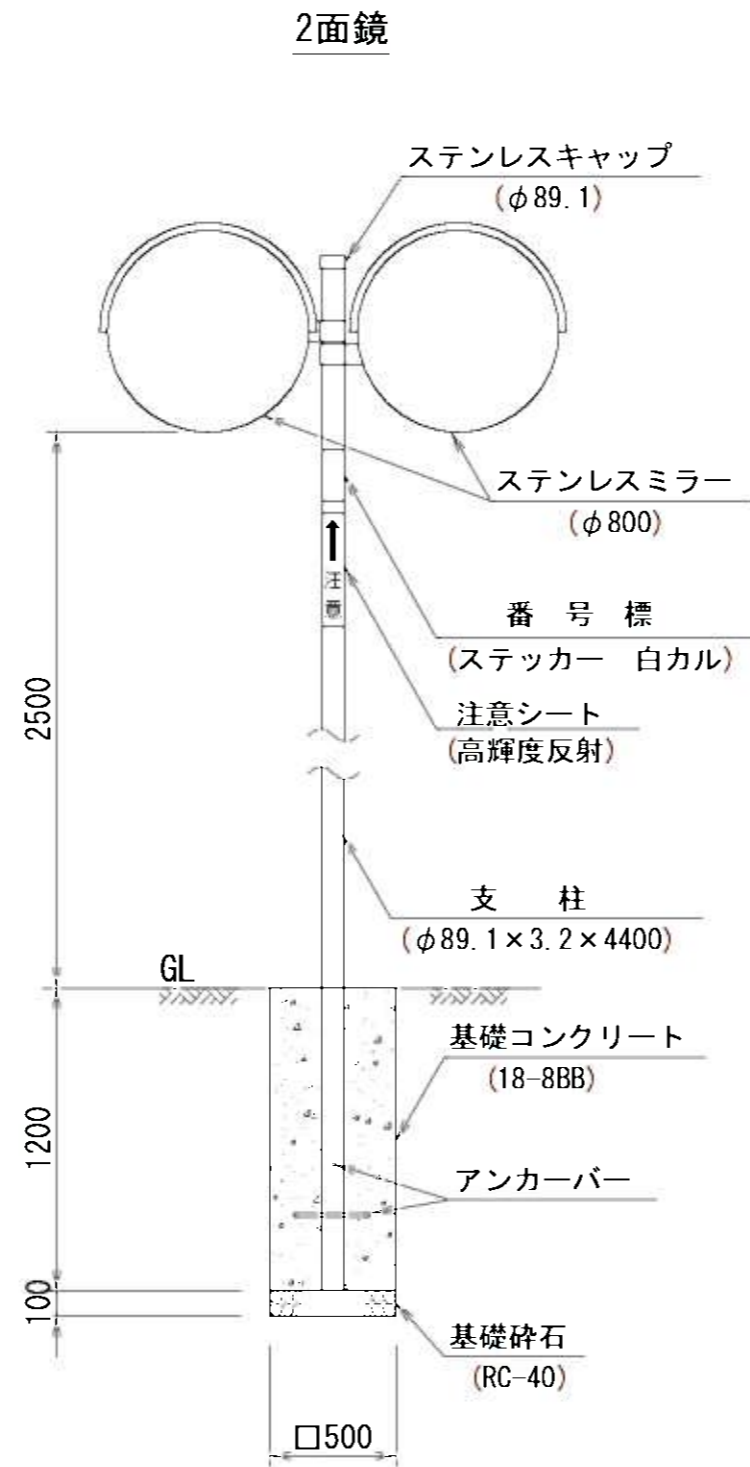
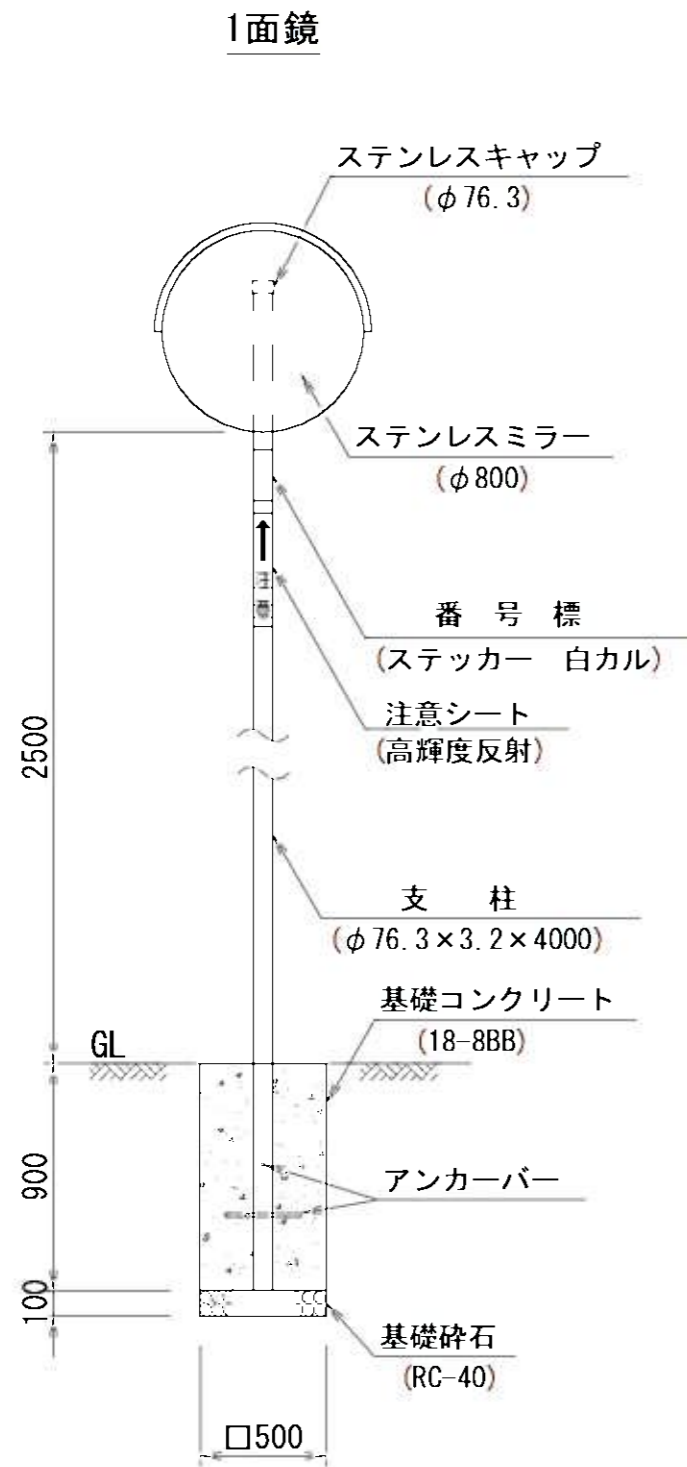
材料表 (2) (10基当り)

材料	支柱	ステンレスキャップ	道路反射鏡取付金具	注意シート	番号標
	形状・寸法	(本)	(個)	(組)	(枚)
1面鏡	10.0	10.0	—	10.0	10.0
2面鏡	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0

〈注意事項〉

- (1) 型枠については、4面に設置することを想定し、数量を算出している。これにより難しい場合は別途計算を行うこと。
- (2) 狭い幅員の道路において、道路端に側溝等がある場合は曲支柱を用いたり、路端側の余堀をなくし、鏡面が路端にくる様に考慮すること。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
219	02	DH	003	道路反射鏡 (φ800・未舗装)	R2.07
	交通安全施設類	道路反射鏡	道路反射鏡 (φ800・未舗装)		S=1/30



材料表(1) (10基当り)

材料	道路反射鏡	基礎碎石	型枠	基礎コンクリート
	φ800	RC-40 t=100		18-8BB
形状・寸法	(面)	(m <sup>2</sup> )	(m <sup>2</sup> )	(m <sup>3</sup> )
1面鏡	10.0	2.5	18.0	2.3
2面鏡	20.0	2.5	24.0	3.0

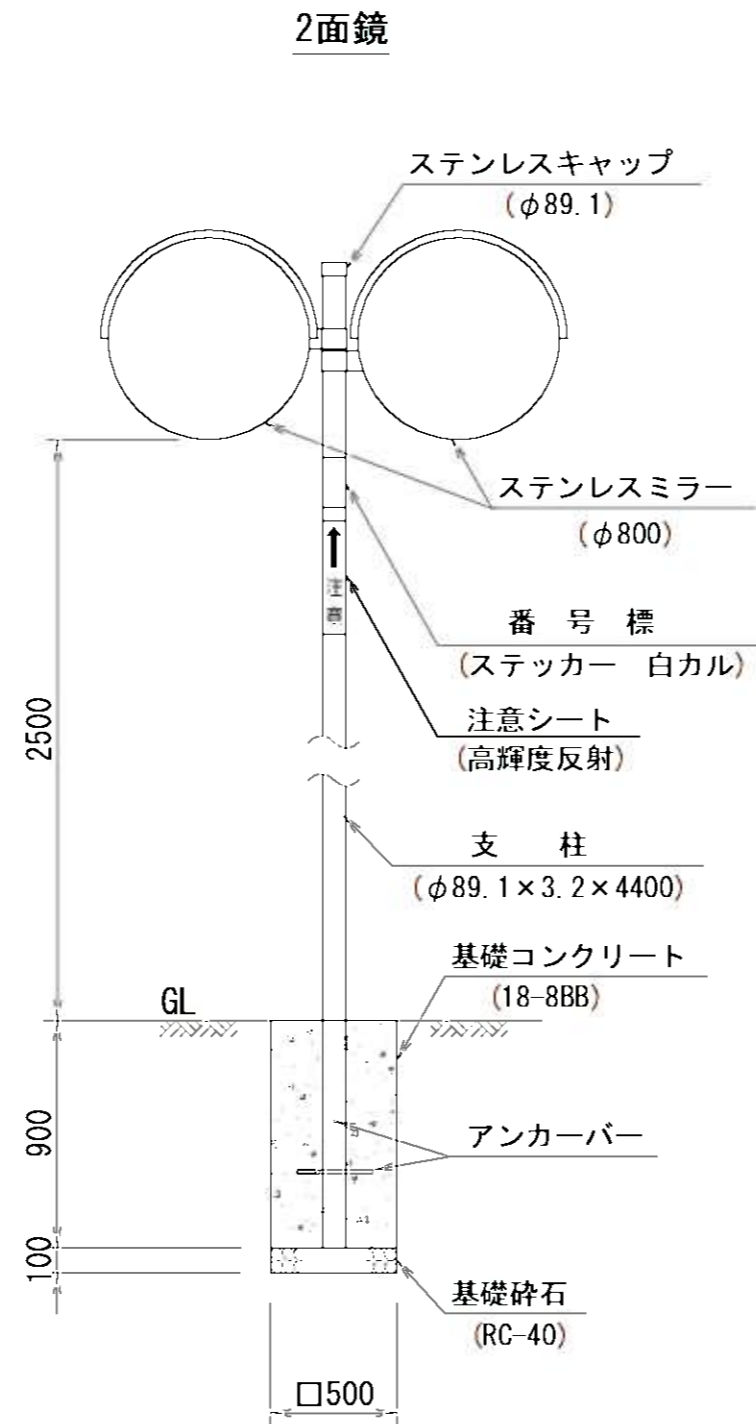
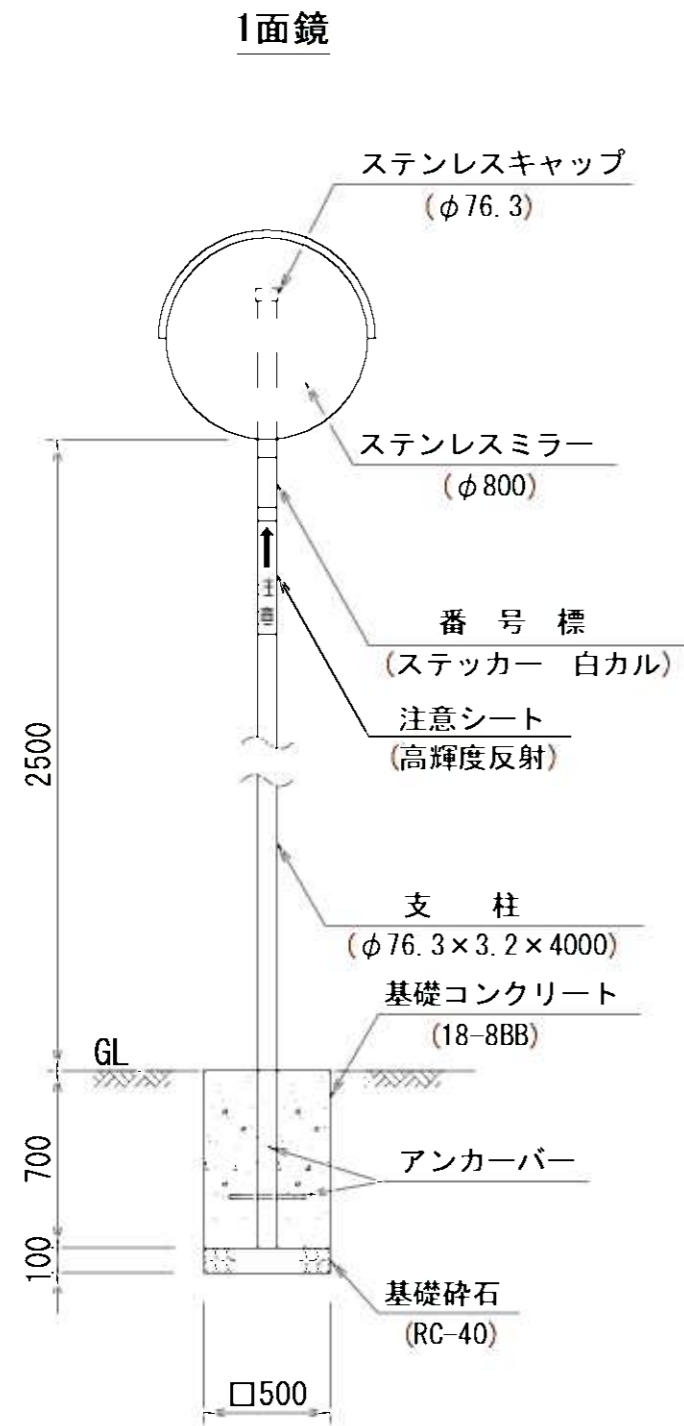
材料表(2) (10基当り)

材料	支柱	ステンレスキャップ	道路反射鏡取付金具	注意シート	番号標
	(本)	(個)	(組)	(枚)	(枚)
1面鏡	10.0	10.0	—	10.0	10.0
2面鏡	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0

〈注意事項〉

- (1) 型枠については、4面に設置することを想定し、数量を算出している。これにより難しい場合は別途計算を行うこと。
- (2) 狭い幅員の道路において、道路端に側溝等がある場合は曲支柱を用いたり、路端側の余堀をなくし、鏡面が路端にくる様に考慮すること。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
220	02	DH	004	道路反射鏡 (φ800・舗装)	R2.07
	交通安全施設類	道路反射鏡	道路反射鏡 (φ800・舗装)		S=1/30



材料表(1) (10基当り)

材料	道路反射鏡	基礎砕石	型枠	基礎コンクリート
φ800	RC-40 t=100		18-8BB	
形状・寸法	(面)	(m <sup>2</sup> )	(m <sup>2</sup> )	(m <sup>3</sup> )
1面鏡	10.0	2.5	14.0	1.8
2面鏡	20.0	2.5	18.0	2.3

材料表(2) (10基当り)

材料	支柱	ステンレスキャップ	道路反射鏡取付金具	注意シート	番号標
形状・寸法	(本)	(個)	(組)	(枚)	(枚)
1面鏡	10.0	10.0	—	10.0	10.0
2面鏡	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0

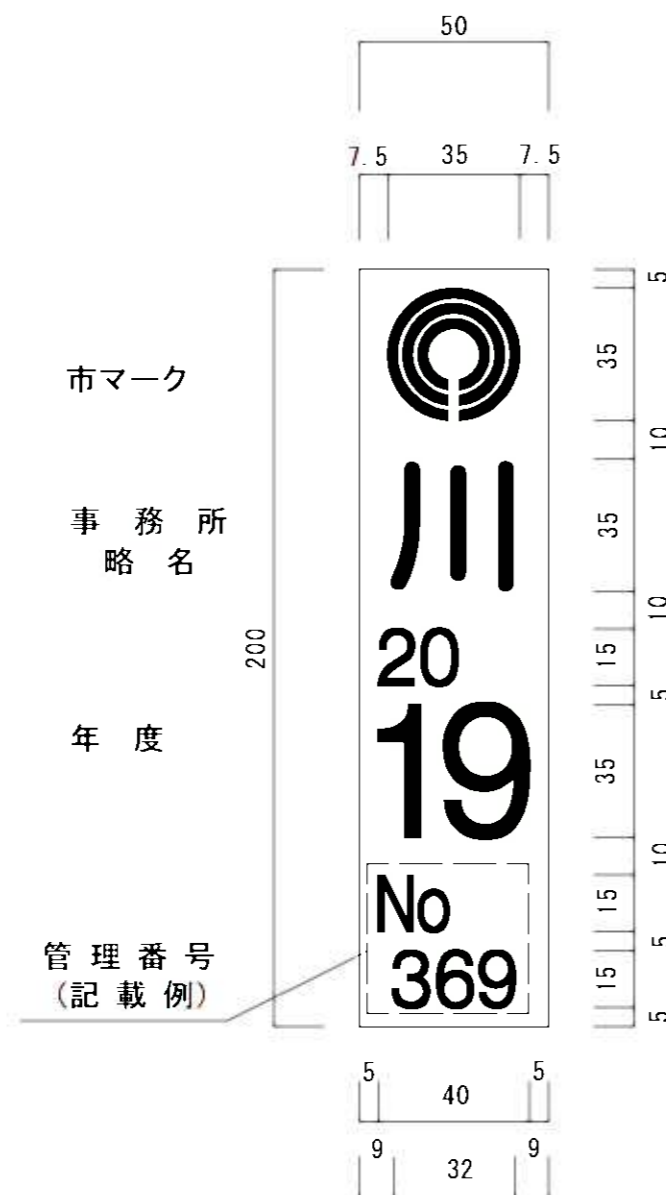
〈注意事項〉

- (1) 型枠については、4面に設置することを想定し、数量を算出している。これにより難しい場合は別途計算を行うこと。
- (2) 狭い幅員の道路において、道路端に側溝等がある場合は曲支柱を用いたり、路端側の余堀をなくし、鏡面が路端にくる様に考慮すること。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
221	02	DH	005	道路反射鏡番号標・注意シート	R2.07
	交通安全施設類	道路反射鏡	道路反射鏡番号標・注意シート		S=図示

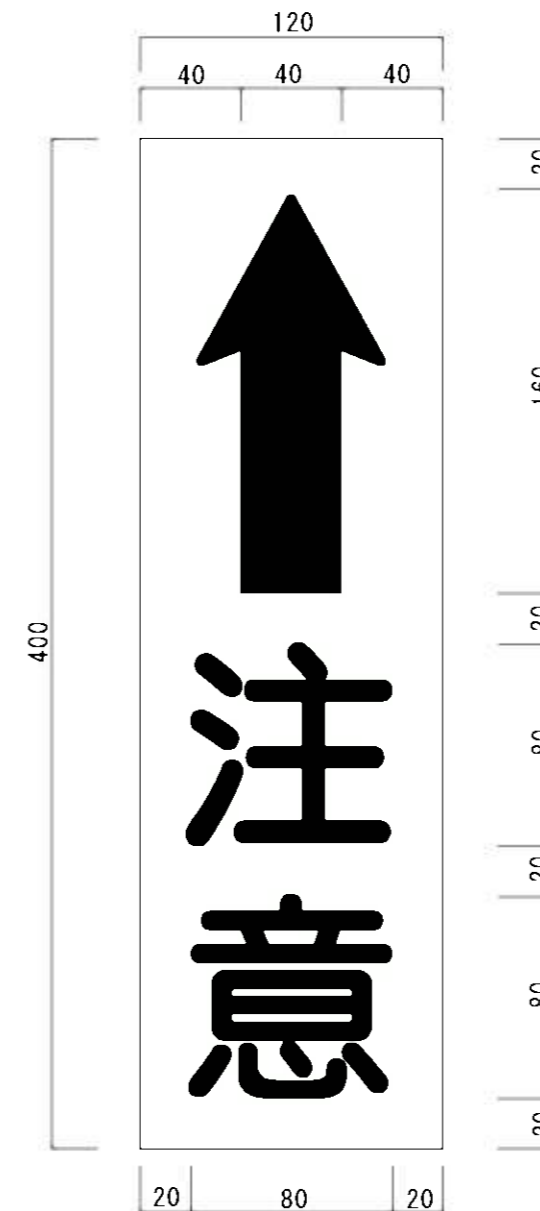
番号標 S=1/2

(ステッカー 白カル)



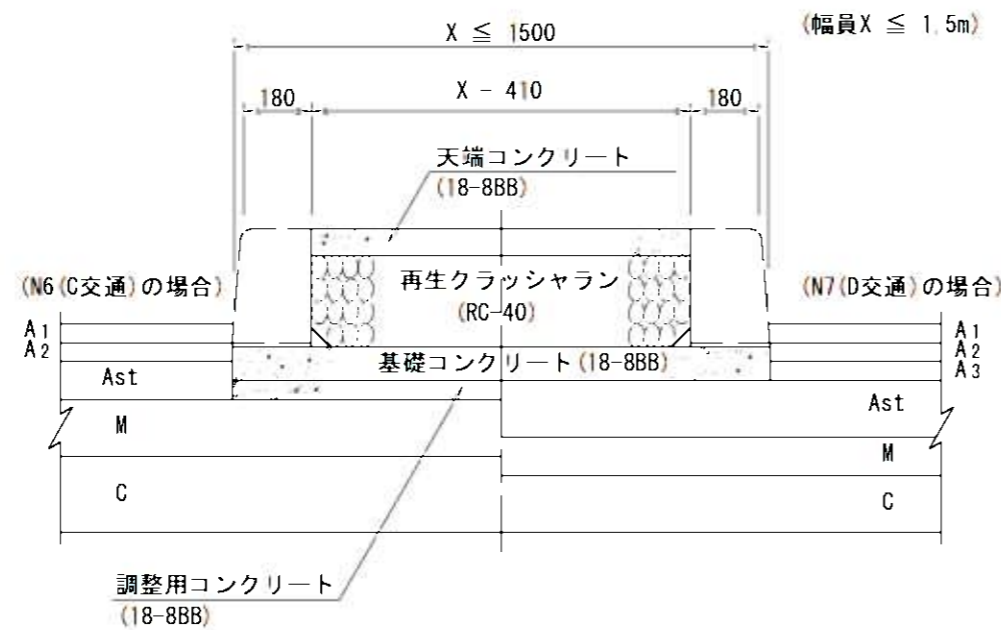
注意シート S=1/3

(高輝度反射)



番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
222	02	CT	001	中央分離帯（植栽不可能な場合）	R2.07
	交通安全施設類	中央分離帯	中央分離帯（植栽不可能な場合）		S=1/20

### コンクリート工

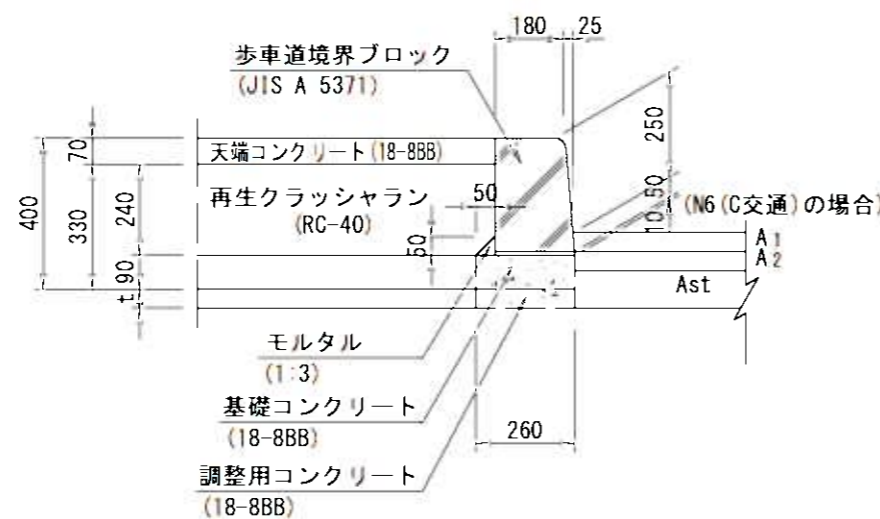


材料表（コンクリート工）

天端コンクリート	再生クラッシュラン	型枠	基礎コンクリート
18-8BB	RC-40		18-8BB
(m3)	(m3)	(m2)	(m3)
$0.07 \times A$	$0.24 \times A$	$L \times 0.09 \times 2$	$(A + 0.41 \times L) \times 0.09$

コンクリート打設面積：A (m<sup>2</sup>)  
縁石延長：L (m)

### 路側工



材料表（路側工） (10m当り)

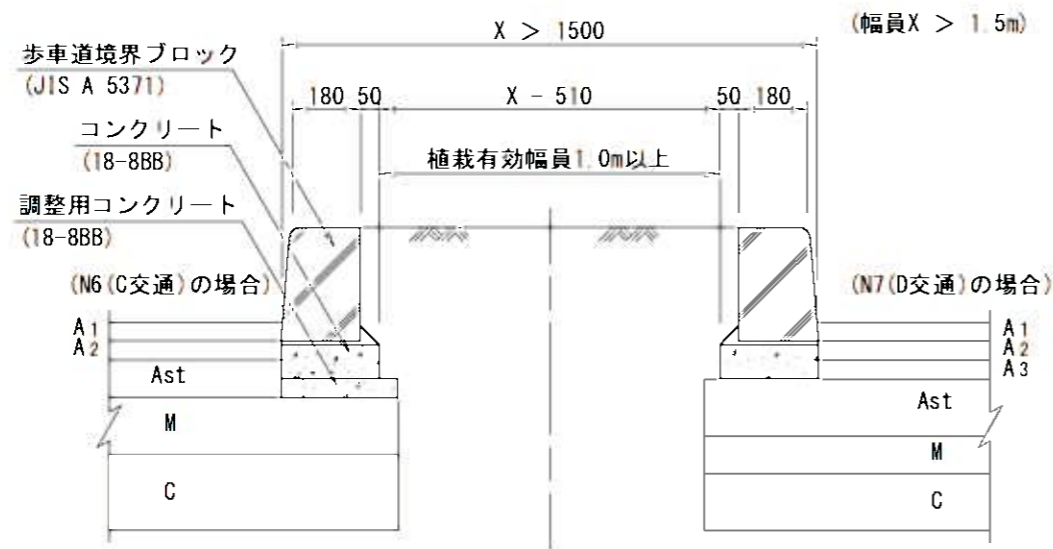
歩車道境界ブロック	モルタル	
JIS A 5371	1:3	
規格	(個)	(m <sup>3</sup> )
180/210 × 300 × 600	16.5	0.03

<注意事項>

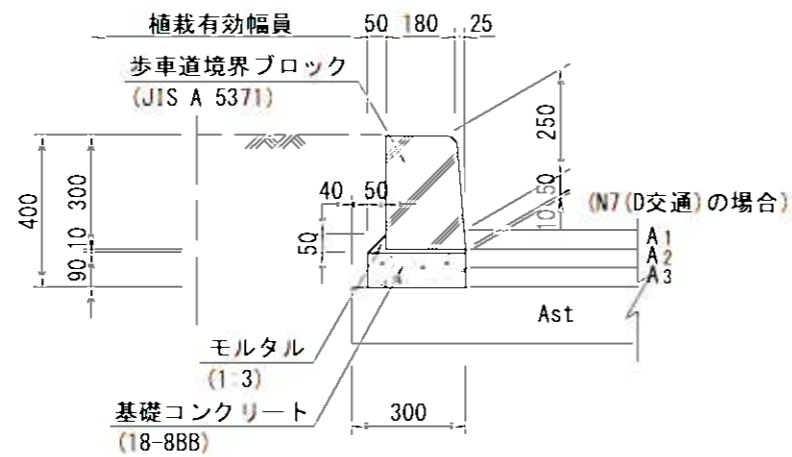
- (1) 調整用コンクリートを必要とする場合は、コンクリート型枠（均し型枠）の材料を別途計上すること。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
223	02	CT	002	中央分離帯（植栽可能な場合）	R2.07
	交通安全施設類	中央分離帯	中央分離帯（植栽可能な場合）		S=1/20

### コンクリート工



### 路側工



### 材料表

(10m当り)

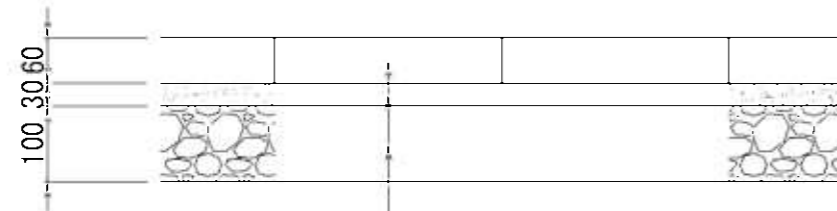
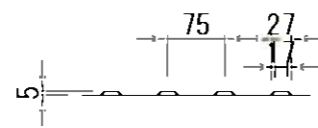
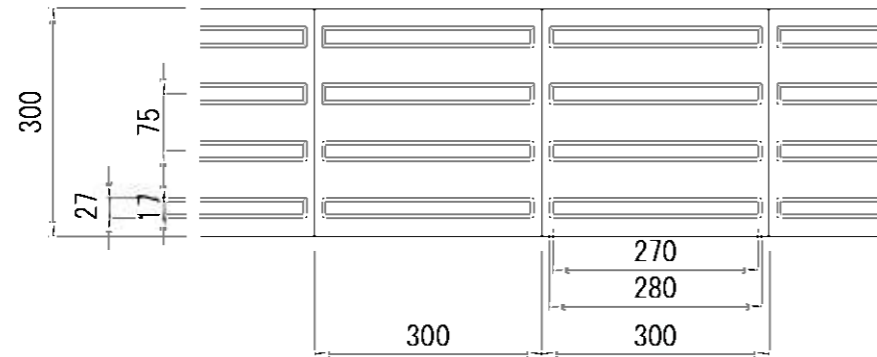
歩車道境界ブロック	型枠	基礎コンクリート	モルタル
JIS A 5371		18-8BB	1:3
規格	(個)	(m <sup>2</sup> )	(m <sup>3</sup> )
180/210×300×600	16.5	1.8	0.23

### 〈注意事項〉

- (1) 調整用コンクリートを必要とする場合は、コンクリート型枠（均し型枠）の材料を別途計上すること。

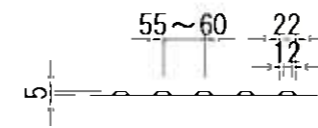
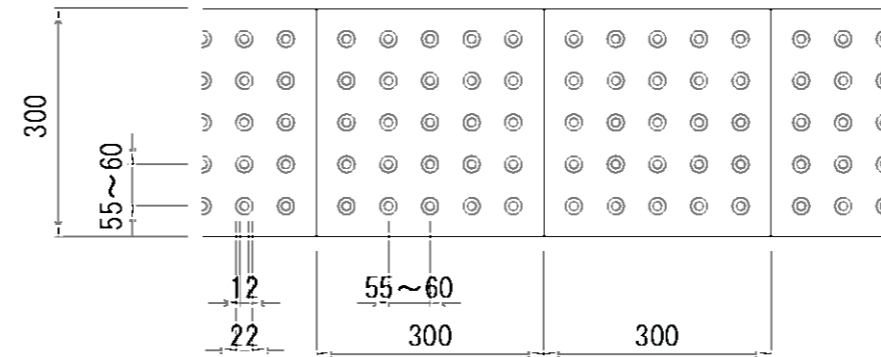
番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
224	02	BH	001	視覚障害者誘導用ブロック	R2.07
	交通安全施設類	ブロック舗装	視覚障害者誘導用ブロック		S=1/10

線状ブロック



視覚障害者誘導用ブロック	t=60
敷砂	t=30
下層路盤	t=100

点状ブロック



材料表 (100m2当り)

視覚障害者誘導用ブロック	敷砂	下層路盤
300×300×60	遮断層用砂 t=30	RC-40 t=100
(m2)	(m2)	(m2)
100.0	100.0	100.0

〈仕様〉

(1) 視覚障害者誘導用ブロックの色は、原則として黄色とする。

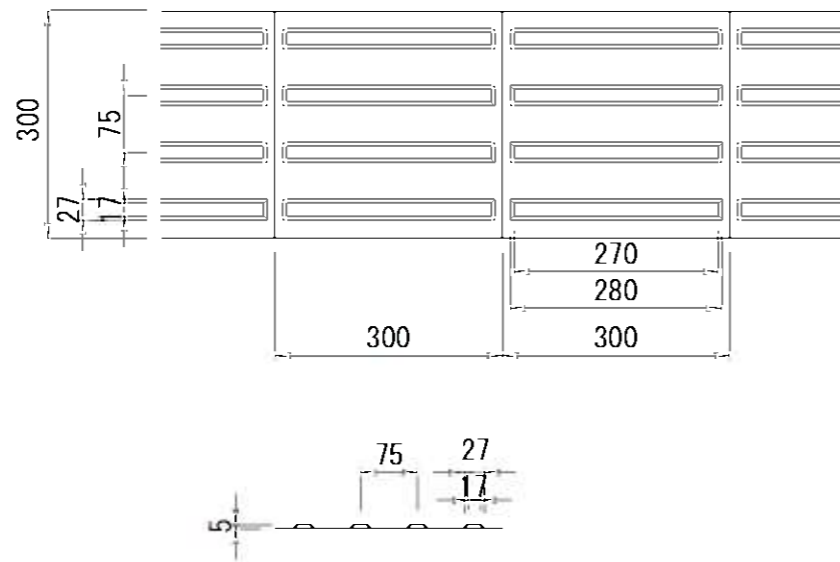
〈注意事項〉

(1) 視覚障害者誘導用ブロックについては、「川崎市福祉のまちづくり条例整備マニュアル」に準拠すること。

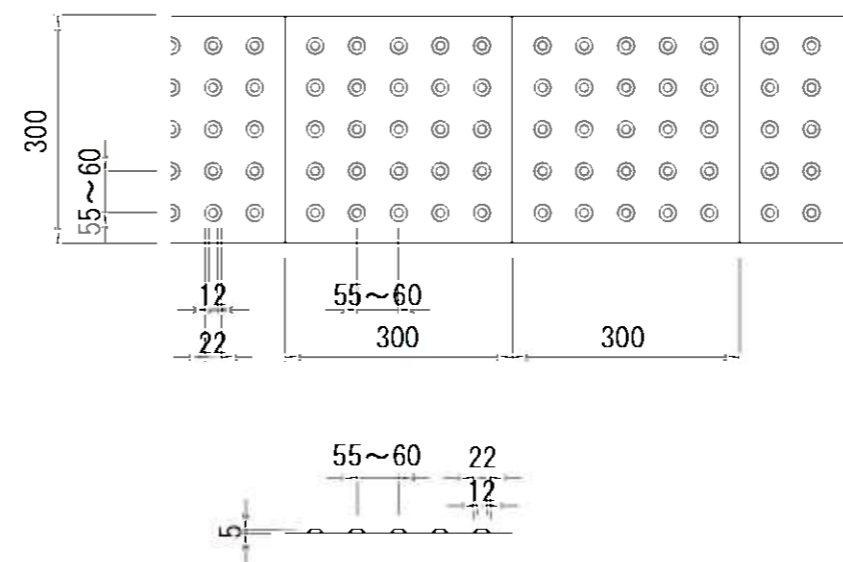


番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
225	02	BH	002	誘導用ブロック型柵敷設	R2.07
	交通安全施設類	ブロック舗装	誘導用ブロック型柵敷設（参考図）		S=1/10

線状ブロック



点状ブロック



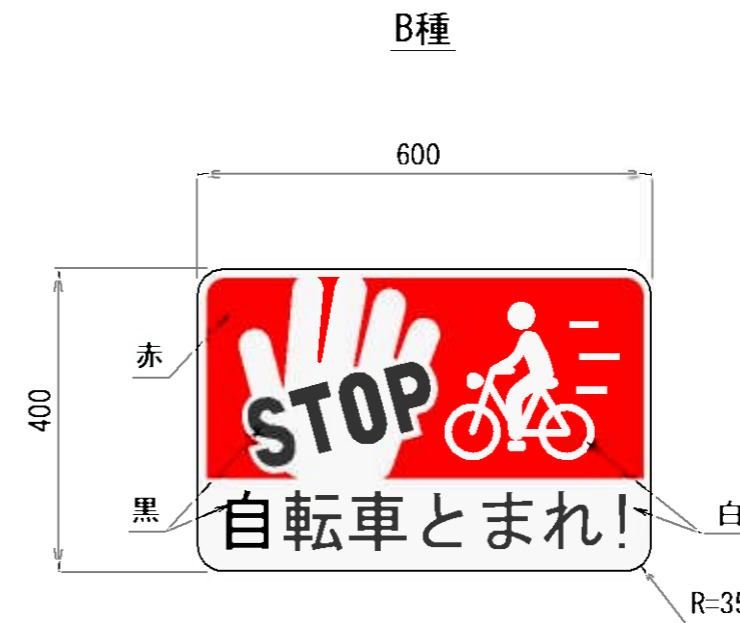
〈仕様〉

(1) 視覚障害者誘導用ブロックの色は、原則として黄色とする。

〈注意事項〉

(1) 視覚障害者誘導用ブロックについては、「川崎市福祉のまちづくり条例整備マニュアル」に準拠すること。

番号	大分類	中分類	小分類	工種名	作成年月
226	02	RS	001	路面注意喚起シール	R2.07
	交通安全施設類	路面シール	路面注意喚起シール設置 (A種・B種)		S=1/10



材料表 (10枚当り)

形状・寸法	路面注意喚起シール	
	規格	(枚)
A種	900×600	10.0
B種	400×600	10.0

〈仕様〉

(1)材質：合成ゴム系樹脂

〈注意事項〉

(1)壁面、階段の立ち上がり(垂直面)に施工する場合は別途考慮すること。